

平成22年度
「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」
実施報告書

日時 平成23年3月28日(月) 午後2～4時

会場 大阪市立中央図書館 大会議室

平成22年度 大阪市子どもの読書活動推進連絡会

1. 日時 平成23年3月28日(月) 午後2時～4時
2. 場所 大阪市立中央図書館 5階 大会議室
3. 議事次第
 - (1) 事務局報告1「大阪市子ども読書活動推進事業」、子どもの読書活動推進の推移
生涯学習部生涯学習担当から
「小学校区教育協議会 - はぐくみネット - 」事業における読書活動推進など
指導部初等教育担当から
学校図書館支援モデル事業から活性化事業への5年間の推移、実態と検証
学校元気アップ地域本部事業
教育委員会事務局中央図書館から
子ども向け図書館サービスの展開～4年間の推移～
図書館の乳幼児向けサービスについて
障害のある子どもへのサービスについて
各区の子どもの読書活動推進連絡会の平成22年度報告と、4年間のまとめ
 - (2) 事務局報告2「大阪市子ども読書活動推進計画」課題整理に向けて
 - (3) 意見交換

目次

報告1「大阪市子ども読書活動推進事業」子どもの読書活動推進の推移 p.1～4
報告2「大阪市子ども読書活動推進計画」課題整理に向けて p.5～6
意見交換 p.6～9
当日配布資料	
「小学校区教育協議会 はぐくみネット」事業21年度報告書より(抜粋)...	p.10～21
学校図書館支援モデル事業・学校図書館活性化事業のまとめ p.22～23
平成22年度 学校図書館活性化事業 中間報告 p.24～31
平成22年度学校元気アップ地域本部事業における学校図書館活性化の進捗状況	p.32
子ども向け図書館サービスの展開～4年間の推移～ p.33～35
図書館の乳幼児向けサービスについて p.36～38
障害のある子どもへのサービス p.39～43
平成22年度 各区子どもの読書活動推進連絡会 報告 p.44～47
各区子どもの読書活動推進連絡会の4年間をふりかえる p.48
「大阪市子ども読書活動推進計画」 課題整理に向けて p.49
子どもの読書活動推進概念図 p.50
大阪市子ども読書活動推進計画 - 概要版 - p.51～52
大阪市子どもの読書活動推進連絡会設置要綱 p.53～54
出席予定者名簿 p.55
事務局名簿 p.56

報告 1

「大阪市子ども読書活動推進事業」、子どもの読書活動推進の推移

1. 生涯学習部生涯学習担当から

「小学校区教育協議会 はぐくみネット-」事業における読書活動推進など

(本事業の平成 21 年度の報告書からの関係部門を抜粋、P10～21 参照)

学校、地域、家庭の連携のなかでの読書活動支援について報告する。本市では「生涯学習大阪計画」に基づいて、さまざまな事業・施策を展開しており、その中で、学校を中心に地域社会の中で、さまざまな人が継続的に子どもに関わるシステムをつくり、学校教育や地域活動に参加することで、子どもの健全な育成を促すことを目的に教育コミュニティ作りを進めている。その中心的事業として「小学校区教育協議会 はぐくみネット」事業がある。学校や PTA をはじめ地域の諸団体などで構成する協議会として、平成 22 年度は小学校区全 297 校区に設置。市民ボランティアのコーディネーターと呼ばれる方が地域の実情に合わせて、学校や地域の子育て、教育活動の情報や意見交換を行い、学校と地域をつなぎ、学校教育に地域側から支援したり、人と人が出会い交流する催しの開催、地域の子育てや教育に関する情報誌の発行などを行っている。

【P16 参照】学校教育支援に関わるボランティアについては、授業やクラブ活動に保護者や地域の方の参加・協力が増え、21 年度は 56423 人の方が関わっている。そのうち、297 校区中の 225 校区 3,398 人の方が、休み時間などの読み聞かせ、図書館開放支援等の読書支援活動に協力して頂いている。

【P18 参照】他事業と連携した取り組みとしては、131 校区で地域図書館との連携を行い、子どもの読書推進の取り組みを進めている。

同じく学校を拠点として活動する事業である「生

涯学習ルーム事業」のなかでも、読み聞かせなどを進めており、地域連携支援事業として学習成果の還元や地域の諸団体と連携した事業の取り組みを進めている。

また、子どもが楽しめ学べる施設を紹介した冊子「タッチ施設ガイド」については、毎年 4 月末に発行。子ども読書活動推進計画や図書館の一覧等を掲載し配布。小学校新 1 年生全員に配布する予定。

2. 指導部初等教育担当から

『学校図書館支援モデル事業から活性化事業への 5 年間の推移、実態と検証』・学校元気アップ地域本部事業

(P22～32 参照)

3. 教育委員会事務局中央図書館から

(1) 子ども向け図書館サービスの展開 ～ 4 年間の推移 ～

(P33～35 参照)

平成 18 年度から 21 年度までの変化・推移を報告する。

【市立図書館蔵書冊数の推移】については、一般書・児童書別にグラフ化。18 年度と 21 年度を比較すると、一般書 7.5%、児童書は 8.9% 増加。

【貸出冊数の推移】については、全般に増加傾向にあるが、一般書に比べ児童書のほうが貸出冊数増加率が高く、18 年度 21 年度比は一般書で、14.6%、児童書で 18.3%、蔵書冊数よりも貸出冊数のほうが高い増加率を示している。

【児童登録者数】については、15 歳以下の有効な図書館カード所持者である「有効登録者」とそのなかで当該年度中に一度でも利用された「年度利用者数」の推移を示している。少子化が叫ばれてい

るものの、大阪市の15歳以下の人口はほぼ横ばい、登録者は7.8%減、年度利用者数は4.1%増加、これは、図書館カードを作る子どもは残念ながら減っているが、一方で、一旦、図書館カードを作った子どもは、以前より図書館をよく利用しているという状況であり、二極化が進んでいるとも言える。

【図書館での子ども向け事業】について、図書館で実施しているおはなし会、おたのしみ会など子ども向けの催しの実施回数、参加者数の推移は、年々増加傾向を示している。ボランティアの皆さんにご協力いただいている行事がほとんどで、指定都市と比較しても一番多い実績となっている。【読書支援活動ボランティア推移】について、図書館を拠点に活動されているボランティア数の推移で、21年度は2410人。活動内容による内訳については、P34参照。教育委員会事務局経営方針の事業指標としての目標数値2500人をこの3月で達成する見込み。

平成21年度に実施した【図書館でのボランティア講座】（高齢者向き含む）については、実施回数延341回、延べ参加者数3606人。

【One Book One OSAKA事業の推移】について、本事業は平成21年度より実施、市民ボランティアや公募の子ども運営委員による運営委員会を開催し、市民の投票結果を元にOne Bookを審議決定する。投票総数、絵本講座、世代間交流事業（平成21年度はモデル区のみの実施）実施回数ともに大幅に増加。決定された第2回One Bookについては、4月23日子ども読書の日に、平松市長より発表し読み聞かせもしていただく準備を進めている。

次に【学校との連携・支援の推移】について報告する。

「学校への団体貸出」について、実績が増えてきており、その要因は後述。

「図書館見学」については、主に小学校3年生の社会見学として実施、図書館の働きや利用状況について説明している。

「図書館での調べ学習支援」については、総合的な学習時間の課題解決などのお手伝いをしている。例えば、グループやクラス単位で生徒が調べ学習のために図書館に来るとか、あるいは、図書館司書が学校に出向いて、図書館のガイダンスや調べ方などを説明したり、また、教員からの依頼により調べ学習のテーマにあわせた資料を提供したりといった回数が含まれている。

「職場体験学習の受入」については、学校から生徒が職場体験やボランティア体験で来館した件数で、対象は主に中学生。

「学校図書館主任会への参加」について、教員研修の受入等もこの数値に含まれている。

「学校への団体貸出冊数」について、迅速に対応できるよう調べ学習用図書300セット、約9000冊を19～22年度で整備。学校の先生が図書館に本を借りに来て、また返しに行かなければならないという物流が非常に煩瑣であり大きな課題であった。

21年12月より、モデル区として北・都島・東住吉の3区で、学校送便を活用した団体貸出を試行実施、22年度の2学期からは、全区で実施したことにより、22年度の教育委員会事務局の経営方針の達成目標である学校への団体貸出冊数45000冊については、年度末には達成する見込み。

【おはなし会等での学校での実施回数の推移】については、19年度に大幅に増え、21年度に若干減少している。学校図書館活性化事業が進み、活性化事業でのボランティア活動が広がったことにより、図書館から出向く回数が減ったのではないかと分析している。

（2）図書館の乳幼児向けサービスについて

（P36～38参照）

図書館の子ども向けサービスの中で、学齢期前の乳幼児に向けたサービスに特化して、この間の経過、推移を報告する。

まず、「ブックスタート事業への支援」について、ブックスタートとは、赤ちゃんに最初の絵本

をプレゼントする取り組みで、英国で始まり、平成 12 年に日本で初めて紹介され、15 年度より本市で実施。主管局はこども青少年局。

昨年 8 月より全区で方式変更があり、現在、3 か月児健診の案内に絵本の引き換え券を同封し送付、概ね 1 歳になるまでに、近くの子育て支援施設で実施する、司書とボランティア等による絵本を楽しんでいただくプログラムに参加していただき、絵本を 1 冊プレゼントする事業となった。赤ちゃんと保護者が絵本を通して楽しい時間を分かちあうことを応援するものという趣旨をしっかりと見据えて、図書館としては支援してまいりたい。

ブックスタートでお渡しする絵本については、図書館を拠点に活動されているボランティアにも入っていただいた会議の場で候補リストを作成し、こども青少年局へお渡ししたという経緯がある。(P36 参照)

ブックスタート事業の実施に伴い、図書館サービスにおいても変化がみられた。まず、乳幼児サービスの拡大として、大阪市立図書館全館で赤ちゃん絵本コーナーを設置し、乳幼児向けおたのしみ会も開催した。従前より図書館では、学齢期前より小学校低学年あたりを対象にしたおたのしみ会を開催してきたが、ブックスタート事業への支援を開始してから、乳幼児に特化した催しを市立全館で開催。18 年度の開催回数は 263 回、21 年度には 564 回と 2 倍強になっている。各館で開催頻度はさまざまであるが、お昼寝の時間を避けて午前中に開催するなど工夫した取り組みを行っている。

乳幼児親子の利用については、児童書の貸出冊数が増加、とりわけ、絵本について、21 年度には 18 年度比 2 割強も貸出冊数が増えており、ブックスタート実施前の 15 年度と比較すると 5 割近くも増加、乳幼児親子の利用が増えていることを物語っている。

12 年度より、幼児期読書環境整備事業を実施。これは、保育所・幼稚園等へ図書館から便を出し

絵本セットを配本し、同時にボランティアによる絵本の読み聞かせ等のおたのしみ会の実施も行ってきた。対象施設として、最近では、ブックスタート事業の関係で、子育て支援施設等にも拡大している。

このように、子ども向け読書普及事業は増加傾向にあるが、特に子育て支援の場での事業開催回数の増加が顕著(統計資料参考)。これは、ブックスタート事業等の連携をきっかけとした子育て支援施設とのネットワークの広がりが大きな要因となっている。子育て支援センターや子育てプラザ等で開催される親子教室や子育てサロンでのおはなし会、地域の身近な施設で読書支援活動ボランティアが定期的に読み聞かせをしたり、図書館司書が絵本の楽しさや選び方のお話をする機会が増加、18 年度 567 回、21 年度には 4 倍近くも増加した 2016 回の開催となった。各区で開催の子育てフェスタ等の催しに参加し、絵本展(段ボールで作った面展台上に絵本の表紙を見せて展示し、子育て親子に絵本で楽しいひとときを味わっていただくもの)を開催するなどの取り組みも増えてきている。

(3) 障害のある子どもへのサービスについて

(P39～43 参照)

障害のある子どもへの支援、図書館サービスについて、中央図書館の事例を中心に紹介する。

まず、サービスを受けるには、障害者サービスの登録が必要で、登録要件は、大阪市内在住、在勤、在学か、八尾市内在住で、かつ、障害者手帳所持者が基本。貸出は 16 点 1 カ月間。目の不自由な方には対面朗読サービスも実施。重度の肢体不自由などで図書館への来館が困難な方には、郵送貸出も実施。対面朗読や郵送貸出は子どもの利用は少ない。

障害のある子ども向けの図書館資料を紹介する。

点訳絵本について、絵本に透明シートに書いた点字と、絵の説明や絵の形に切り取った透明シ

ートを貼ったもので、障害のある子どもだけでなく、視覚に障害を持った保護者が子どもと一緒に楽しめるよう工夫されている。また著作権法では点字の複製は認められているので、誰でも利用可能。地域図書館でも数多く所蔵。

さわる絵本について、絵本の絵の部分に触って楽しめるように素材の触感なども考え作られた絵本。原本のあるものは、著作権許諾の関係上、視覚障害のある方のみ貸出可能。

布の絵本について、肢体障害や知的障害をもつ子どもたちのために、布などで作られ、マジックテープやボタンで部品をつけたりはずしたりして、手先を使って楽しめるように作られている。著作権法上は誰でも利用できるオリジナルなものが多いが、部品などの管理の面から現在は障害者用、もしくは、行事用としてのみ利用。

これら、さわる絵本・布の絵本はボランティアが製作。図書館が材料と作業場所を提供し、完成した絵本を寄贈いただいている。

大活字本について、大人向けだけでなく子ども向けの内容のものもあり大きな活字にして出版されている。去年は青い鳥文庫が原本の装丁のまま、挿絵もついて大活字本として出版された。

大阪市立図書館で毎年発行している「こどものほんだな」について、子どもたちに読書をすすめる際の手引きとなる冊子。1年遅れの発行となるが点字版、テープ版、マルチメディアデージー版も提供。

マルチメディアデージー図書について、パソコン上で専用再生ソフトを使用することにより、音声にテキストや画像をリンクさせて表示できるデジタル資料。文字の大きさや画面の色を自由に変えたり、読み上げの早さも変えることができるので、読むことが苦手な子どもでも楽しく読書ができる。近年、学習障害の子どもたちに対する有効な学習支援ツールとしても注目を集めている。

マルチメディアデージー本は全国でも少なく、当館でも数点しか所蔵していないが、今後は市販

のものを購入したり、ボランティアグループに作成してもらったりして増やしていく予定。

障害のある子どもが利用しやすいように原本を変えて提供する場合は、著作権法が関わってくる。著作権法改正により2010年1月から公共図書館で音訳資料を作成することが出来るようになり、利用者についても視覚障害者だけでなく、「視覚および視覚認知に障害があるもの」に拡大され、学習障害児等も含まれるようになった。

次に、最近のとりくみについて、2010年2月に障害をもつ子どもに絵本の楽しさを届けることを目的とし、図書ボランティア向けの講座「布の絵本さわる絵本の活用講座」を開催。また、2007年より毎年、奈良デージーの会とマルチメディアデージー講演会を共催、マルチメディアデージー体験会も実施し好評である。講習会も数回開催し、製作ボランティアを募集している。

また、マルチメディアデージー製作ボランティアは、One Book One OSAKA の上位ランキング絵本のマルチメディアデージー化を図っており、現在、『100万回生きたねこ』『もりのゆうびんきょく』などを製作中。

最後に、特別支援学校との連携について、図書館で不要になった本や寄贈本のなかから、子どもの本を集めて、小学校で活用してもらえるよう小学校向けの本のバザールを平成17年度より開催。22年度は市内全小学校だけでなく特別支援学校にも呼びかけ、9校中2校が参加。仕事体験学習では、中央図書館では2校5名、旭図書館では1校2名の生徒を受け入れた。地域図書館からは、図書館ボランティアによる特別支援学校でのお話会も報告されている。

(4)各区の子どもの読書活動推進連絡会の平成22年度報告と、4年間のまとめ

(P44～48 参照)

報告 2

「大阪市子ども読書活動推進計画」課題整理に向けて（事務局）

（P49～52 参照）

平成 17 年度に策定した「大阪市子ども読書活動推進計画」は、概ね 5 年間の計画であり、この中の[3.基本的な方針]の(1)計画の目標として、「大阪市のすべての子どもたちが自主的な読書活動に取り組むことができるよう、家庭や地域、図書館、学校が連携・協力し、次に掲げる目標の実現に努力します。」として、から を掲げている。この 5 年間で振り返り、連絡会事務局として課題を挙げてみた。

子どもの読書環境の整備・充実について、

「大阪市のすべての子どもたちに読書に親しむ機会を提供します。そのために読書環境の整備・充実に努めます。」としている。先ほどからの報告にあるように、大阪市の読書環境は豊かになり、読書に親しむ機会も増えているが、引き続き、サービスの拡充を図るなかで、特に、障害のある子どもに対するサービスの拡充、中・高校生に対する読書環境の整備、言語力・情報検索力向上への支援を考えている。

推進計画の中では、子どもは「18 歳まで」となっているが、中高生の図書館利用は落ち込み、多くの市立図書館ではヤングコーナーを設置しているものの、どんな情報提供が必要であるかを把握し、さらには情報を読み解く力の育成に向けての支援がさらに必要だと感じている。

家庭、地域、図書館、学校の連携・協力については、現在は柱が二つあると考えている。「子どもの発達段階に合わせ、家庭や地域、図書館、学校がそれぞれの役割を果たし、連携・協力を深め、子どもの読書活動を推進していきます。」とあるが、まず、家庭、地域、図書館の連携・協力としては、ブックスタート事業の変更により、連絡会に子育て支援施設からの参加が増え、

一層の連携、協力を検討する必要があると認識している。

もう一つは、学校を軸とした地域、図書館の連携・協力であり、学校図書館活性化事業の継続については、人材の育成とも重なるが、活性化事業の実践交流会と連絡会との関係について整理し、学校での取り組みをさらに共有化して一層の充実を図る必要があると考える。

学校元気アップ事業等への協力による中学校に対する連携・協力拡充についても今後一層研究していく必要がある。

子どもの読書活動に関する普及・啓発について、

「子どもの読書活動を推進するための積極的な普及・啓発活動に努めます。保護者や教職員、子どもを取りまく地域社会の理解と関心を深めます」としており、絵本の楽しさや、一緒に絵本を読むことの楽しさを PR していくということで、One Book One OSAKA 事業の継続・拡充を検討していきたい。

人と本、人と人を結びつける人材の育成として、

「1 冊の本との出会いは、人と人の出会いでもあります。読書支援活動ボランティアの養成など、子どもと本を結びつける人材の育成に積極的に取り組みます。」としている。先般開催したブックスタートの入門講座に 100 人を越える参加があり、まだまだ、読書支援に係る活動をやってみたい人がおられることを感じた、そういう方々に情報を届け、読書支援活動ボランティアの連携・拡充を進めていく。

もうひとつは、図書館に学校図書館支援ボランティアが読書相談に来られることが増えている。今後、図書館を拠点として活動されている方々と学校を拠点に活動されている方々との情報交換の場の設定を進めていくことが必要であると考えている。

地域・市民を軸とした読書活動の輪の形成と

いうことで、「子どもを取りまく地域社会が、子どもの読書活動を通して有機的に結びつき、子ども読書活動推進のネットワークを形成し、地域の教育力の向上につながるよう取り組みます。」としている。これは、連絡会を軸とした絵本展、講演会等さまざまな事業が増えているが、より一層、区役所や区の社会福祉協議会とつながって、地域で子どもの読書推進に関わる活動

をされている方の情報を紹介していただくなど、情報を交換するという取り組みが必要と考えている。

22年度の数字がまだ、出ていないため、今回は4年間の振り返りとしたが、今後、各区連絡会等において、5年間をふり返り、課題整理についても検討いただければと思う。よろしく願います。

意見交換

脇谷邦子（同志社大学講師）

ブックスタート事業について、子育て支援施設で本の受け取りを行っているとのことだが、受け取り率は？受け取りに来られなかった子どもたちへのフォローはされているのか？

事務局

子ども青少年局からの正式な統計報告はまだなく、図書館では正確な数値はつかんでいないが、参加率は低く、おそらく40%未満、区によっては40%を超える月もあったと聞いている。

来なかった子どもたちへのフォローについても、把握できていない。方式変更の移行時に、ほとんどの親子が参加する96%の参加率を誇る3か月児健診時に実施していた意義についても図書館から確認した。新生児の全戸を訪問する事業等さまざまに展開している子育て支援施策の機能を使うことも検討されているようだが、実施には至っていないと聞いている。

脇谷邦子（同志社大学講師）

ブックスタートに関して、来られない方へ届けるということが重要、本が受け取られるように、図書館から青少年局に伝えてもらえればと思う。

本日の報告を聞いて、非常に感心した。規模の小さい自治体では、きめの細かい取り組みを行えるのは当たり前だが、大阪市のような大規模自治

体でこれだけきちんと展開されているのは、全国的にみても誇っていいと思う。ただし、ほとんどの成果をボランティアさんの力に頼っていると思うので、ボランティアさんへのフォローが大事。これから新たに多くの方に参加していただくためにも、ボランティアさん自身が参加してよかった、参加することで自分自身が成長した、自分にとって良かったと満足度、達成感を感じられるように、きめの細かい情報提供、必要とされる勉強のための講演会の開催等、ニーズ把握とフォローを、今後も一層取り組んでいってほしい。

図書館は、障害のある子どもたちへのサービスや子ども自身が参加するOne Book One OSAKA事業などは大きな成果となっており、よくやっていると思う。

子どもたち誰もが通い、長時間過ごす学校が課題だと思う。身近な学校図書館の活性化がまだまだ必要である。開館時間についても必ずしも開いている状況でもないし、参加するボランティアさんを増やす、コーディネートする、ということも含め、先生方の力が必要になる。先生方の意識改革が大切である。これからの時代は、異なる価値観、文化をもつ人達が増えてくることが共通の課題、利害関係が対立するという課題も含めて、お互いが一緒に力を合わせていかなければならない時代には、今までの学校のように、知識を教え授けるだけでは十分でない、自分で考える力、

解決する力こそが大切。そのためには図書館や本が大事である。つつい目先の学力にとらわれて、漢字を覚えさせる、計算力などに目がいきがちだが、本当の意味での学力、読解力、文章力が大事。そのことを先生方が十分に理解する必要がある。教育委員会には先生の意識改革をぜひお願いしたい。

木原俊行（大阪教育大学教授）

たくさん報告いただき、いっぺんには理解できないほどの取り組み、しかしそれは、厚みや多様性があり、とてもいいことだと思う。関係各位には敬意を表したい。

ただし、今後は、拡げ過ぎても維持するのが難しい、どの部分が魅力的で、どの部分をスリム化したほうがいいのかを考える必要がある。その際には、大阪市以外の政令市が何をやっているのか、毎年でなくても、ある節目の時にでも、比較検討をしてはどうか？

脇谷先生もおっしゃっていたが、子どもの参画を営みの中で取り入れていく、もしくは支柱にしていくことは良いことである。本を愛する、本に親しむことは一種の文化なので、大人に言われてやるだけでは子どもたちのものにならない。子どもたちの参画を強める必要がある。その際に One Book One OSAKA 事業は非常によいアプローチである。もっと他にも取り組みの形があるのではないか？学校単位では、上級生が下級生に読み聞かせをする取り組みなどは、当たり前のようにやっていると思うが、市が連絡会等において更に全市的な取り組みとして子ども参画について考えていく必要があるのでは？例えば、大阪市の子どものための推薦本 100 選や、読み聞かせコンテストなど、さらに考えて頂けるとよいと思う。

また、教員研修に対する取り組みがやや手薄と感じた。小学校では来年度から、中学校では再来年度から新しい学習指導要領となり、すべての教科について言語活動を充実させる、言語環境を整

備するとなっている。言語活動、言語環境というのは、かなりの面で読書活動とオーバーラップすると思う。本を使って子どもたちの学びを支え促すということは、多くの先生方の意識にあるがアイデアが足りない。ボランティア経験の豊かな方々から先生に提案していただくことを、学校単位・区単位・市単位で行うことが必要。そこには市の教育センターが加わって取り組む必要があると思う。

最後に、色々な取り組みが、子どもの中で統合させるために、大阪市の小学生 1 年生全員に読書手帳を配布するようにはどうか？年間にどんなジャンルの本を読んだか記していく、あるいは、読み聞かせをした記録など、この手帳を見ればその子と読書との関わりが縦断的に記録でき、子ども自身も自己点検でき、教員からは指導の糧となるような道具立てがあればよい。スタイル・デザインは子どもたちが決めてもいい。道具があると、人と本とのつながり、本を媒介とした人とのつながりが目に見える形で進み、目に見える形で残っていくと思うので、財政難は承知だが、ご検討いただければと思う。

大阪市 PTA 協議会研修委員長（石川）

大阪市の子どもたちは思考力、判断力、読解力が弱いと言われている。読書百遍意自ずから通ずというが、今の子どもたちには根気力が足りない。インプットだけでなく、アウトプット力を考慮した読み聞かせ、思考力をあげるような本を選んでもらおうといったことを考えていただきたい。

23 年度から指導要領が変わり言語力を培った授業を推進していく。子どもたち自ら考え解決する力を育み、エグゼクティブな人間をつくっていく必要がある。指示待ち人間ばかりでなく、自ら考えて行動できる子どもを大阪市から育てていきたい。今後ともご協力をお願いしたい。

大阪市生涯学習推進員協議会運営委員長（宮田）

生涯学習ルーム事業における地域連携支援事

業、「はぐくみネット」事業等において、PTAの中で、生涯学習推進員になられた方から読み聞かせなどを始めている。3か月児健診等で絵本を配布してもらうのはとても有難いと思う。昔は活字になじむには漫画からと言われていたが、最近では漫画を読む子も少なくゲームに走る子が多いと聞く。接した本によって、本は楽しい、もっと読みたいと思ってくれるそんな本に出会うことによって、さらに読書に親しむという方向をとっていったらと思う。

その為にはみなさんの活動も大切だが、やはり保護者が子どもにどう接するかも大切だと思う。本日午前中に開催の「はぐくみネット」事業の研修会においても、一方的に情報を流すだけのテレビは時間を決め見せて、親子の会話を大切にすることが大事との助言をいただいた。一冊の漫画からでも良いと思う、色々な本に出会って、間口を広げてどこからでも読書に入れるようにしていきたい。生涯学習推進員は究極のボランティアと言われている、私達もみなさんと一緒にできることがあれば、協力していきたい。

大阪市生涯学習推進員協議会副運営委員長（鈴木）

本を読むことにどういう意味があるのか？小さい時、小中高校生、大人・・・、体験できることはたかが知れている。そこを読書で体験を補う、インプットされたものをアウトプットする、どう活かすか？活かす場を我々大人は子どもたちに対して考えていかなければならないのではと思う。コマーシャルで「知層」という言葉が出ている。たくさん得た知識、体験、生きていく力、知恵、これをどう生かしていくかがこれからの課題になっていくのでは？

私は不動禅少林寺流拳法を子どもたちに教えている。全部ではなく、導入部分だけを教えてあとは自主性に任せるという指導法に切り替えている。それは生き方にも通じるもので、子どもたちがどのように育っていくのか楽しみにしてい

る。たくさんの方々が活動されていることに感動した。健康に留意してがんばっていただきたい。

指導部（岡田首席指導主事）

学校と一緒に取り組まなければならないこと、教員の意識改革・・・と色々なご意見を頂戴した。ご出席のボランティアの方々に、実際に学校の中に入りこんでいただき、こういう形で活動していただいているのが、この5年間の成果であると思う。

現在、中学校でも取り組みを進めている。教育委員会の課題として、小・中学校教育研究会学校図書館部や各区の図書館主任会と、ボランティア等との連携や情報交換が足りなかったのではと感じている。学力向上施策の取り組みは3年になるが、まずは、地域のボランティアとの連携が必要と考え、肝心の学校に情報が行き届いていなかったのではと考える。

教育研究会学校図書館部では「子ども司書検定」などさまざまな面白い取り組みをしているが、学校側のそういった取り組みを教員以外の皆様に紹介する場がなかった。今後は、保護者やボランティアに学校や教育研究会の活動紹介の場も設けていきたいと思う。

教員の意識改革が課題であるとのご指摘を受けたが、学校や教員にこのような取り組みについて十分に伝わっていなかった、お互いが情報発信する内容だと思った。今日頂いたご意見は小学校現場に伝えていき、さらに中学校へも繋ぎながら読書活動を広めていきたい。

文科省も読書活動から言語力向上へと推進しており、本市も3年前から言語力向上を目指した取り組みを始め、小学校では子どもたちに言語力をどのように身に付けていくか、また、その言語力を基にして、どのように言語活動を充実させていくか、教員研修として公開授業を実施している。中学校でも23年度から同様に実施する。新しい教科書や学習指導要領が実施され、3年もすれば保護者のみなさんにも浸透していくと思う。

淀川区連絡会代表（蔵満）

ブックスタートに関わる読み聞かせのボランティアもしているが、どのくらいの人数の方々に絵本をお届けできているのか、私達の手元には情報が届いていない。感触として4割には満たない。方式が変更になる際、主幹局に意見を出した。厳しい財政状況のなか、ブックスタート事業を継続することが大事であるとの説明は理解もできるのだが、ずっと疑問に思っている。ボランティアとして、そのフォローをできないかと、少しでも多くの親子に来てもらえるように、地域図書館長と相談して保健福祉センターに出向きブックスタートのアピールに努めた。結果、参加者が増えたのだが、実施施設の担当者から「予想以上に多くの方々が来られた」と迷惑そうに言われたこともある。課題である、参加率アップを図るために、ボランティアもPRに奔走していることを理解していただきたい。

学校図書館に関して言えば、努力されている先生もいるだろうが、一部というのが実感。やはり、全小学校に司書を置いて頂くことを切に望みます。

都島区連絡会代表（村田）

講師として小学校に出向いた折、先生方の意識の違い、温度差がはっきりしていると感じた。小学校の先生は忙しいとは思いますが、他人事のように思っている先生もいらっしゃる。教育委員会が、学校図書館活性化事業の内容を現場の管理職、先生方に深くご理解いただけるような働きかけを十分に徹底することが重要であり、お願いしたい事である。

北区連絡会代表（川原）

ブックスタートの利用率が少ないという意見も出ていたが、つどいの広場を運営する立場としては、ブックスタートをきっかけに実施施設の1つである広場を利用する方がかなり増加してい

ると感じている。

乳幼児をかかえているお母さん達は、社会から取り残されている気分になって煮詰まった状態で家に閉じこもっている方もおられる。ブックスタートをきっかけに、保健福祉センターでは実現出来なかった、ゆっくりとした対応が、つどいの広場等では実現出来ている。一人ひとりに対して、ボランティアさんが触れ合いながら対応できている、子育て支援施設などに変更になって良かった点もあることをご報告したい。

ただし、やはり参加率が低いということは、課題として考えていかなければならないと思う。北区のブックスタートは3ヶ所で開催しているが、子育てサロンや子育てサークルなどの他施設とのネットワークも利用できるのではないだろうか？そういった施設でもブックスタート事業を活用できないか提案したい。本の管理等で課題もあるだろうが、検討材料にして頂きたい。

学校図書館については、先生方の中には学習時間、授業時間が減るために、図書ボランティアによる本の読み聞かせ等はして欲しくないという方もいる。また、司書がないため、ボランティアが選書等一端を担っている状況であり、やはり各学校に司書を配置して欲しい。

事務局

推進計画の課題整理について、報告があったが、これまでは、現在の計画に基づいて、皆さんにご協力を頂きながら進めてきた。現在の様々な課題、意見などを出していただきながら、次の計画策定について課題整理をしていきたい。具体的な意見等は、今後、各区の連絡会で議論して次の計画に反映していきたい。現在の計画は事務局で案を作成し提示した。次の計画では、活動されている皆さんのご意見をもっと入れていきたいと考える。本日頂いた意見報告を基に区に持ち帰って議論していただき、二次計画を良いものにしていきたい。

2 . はぐくみネットの実践 成果と課題

平成 21 年度、はぐくみネットは市内全 297 小学校区で取り組みを行いました。各はぐくみネットの実施報告書から得た活動状況のデータとその実践の成果や課題をまとめて掲載しています。

1) 協議会・事務局会議の開催状況

1:平成21年度の協議会と事務局会議のメンバー構成について

(1) 構成人数

大阪市では、市内全小学校区(297校区)ではぐくみネット協議会を設置しており、事務局の要として日常的に学校に来て情報を集め、連絡調整などを行う市民ボランティアの「コーディネーター」、情報誌の発行などの通常活動を担う「事務局」、地域諸団体・諸事業の役員等も含み地域内のネットワークを構成する「協議会」、で構成されています。

【平成21年度 297校区の構成】



(2) 所属団体

協議会のメンバーの所属団体で最も多いのは現PTA役員で、保護者の代表として1,351人(291校区)が参加しています。次に多いのが小学校教職員(903人)となっています。

コーディネーターの所属団体でもPTA役員経験者や現役PTA役員が非常に多く、学校・地域・家庭の連携を進めるはぐくみネットにとって、PTAの存在が非常に大きいものであることがわかります。

一方で、はぐくみネット委員長には、連合振興町会(135校区)、または、社会福祉協議会(102校区)の関係者が多く、地域活動全般において中心的な役割を果たされている方々が担われている校区が多いようです。

コーディネーター・事務局会議・協議会のそれぞれの構成人数と主な所属団体は右表のとおりです。

また、事業開始当初からの、コーディネーター・事務局会議・協議会人数の推移は右グラフのとおりです。

【構成人数と主な所属団体】 (重複回答)

1. 協議会全体の集計:15位まで

協議会全体《6,749人:1校区あたり4~53人》

現PTA役員	1,351人	291校区
小学校教職員	903人	294校区
PTA役員経験者	775人	226校区
連合振興町会	649人	254校区
主任児童委員、民生委員・児童委員	500人	238校区
青少年指導員、青少年福祉委員	328人	205校区
生涯学習推進員	332人	176校区
社会福祉協議会	282人	161校区
児童いきいき放課後事業地域指導員	254人	194校区
こども会	221人	160校区
学校体育施設開放運営委員	149人	119校区
女性会	131人	110校区
生涯学習ルーム運営委員	123人	98校区
老人会	89人	75校区
保護司会	62人	49校区

2. 役割ごとの集計:5位まで

コーディネーター《1,246人:1校区あたり1~12人》

PTA役員経験者	407人
現PTA役員	278人
生涯学習推進員	159人
主任児童委員、民生委員・児童委員	98人
こども会	46人

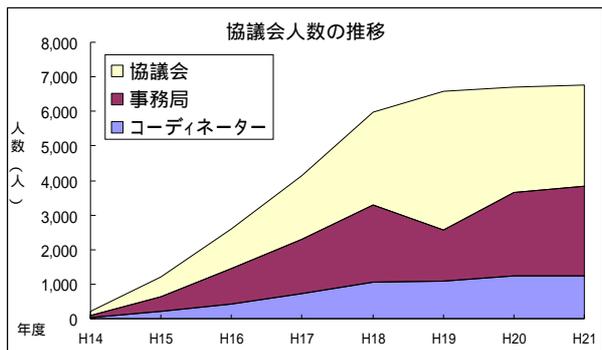
事務局会議《コーディネーター以外2,583人:1校区あたり1~24人》

現PTA役員	724人
校長・教頭・教務主任などの教職員	634人
PTA役員経験者	178人
主任児童委員、民生委員・児童委員	142人
青少年指導員、青少年福祉委員	138人

協議会《事務局会議以外2,920人:1校区あたり2~37人》

連合振興町会	601人
現PTA役員	360人
教職員	309人
主任児童委員、民生委員・児童委員	262人
社会福祉協議会	237人

「協議会メンバー表」より集計



2: はぐくみネット協議会・事務局会議について

各校区に設置されたはぐくみネット協議会は、地域の諸事業・諸団体の役員等で構成され、「子どもの健全育成」を目的に各団体の活動内容や意見について交換し、地域が一体となってはぐくみネット事業を進める場です。

協議会の中に設置される事務局会議は、はぐくみネットの円滑な運営のために、具体的な活動の打ち合わせ、情報の収集や発信などの実務を担っています。

【協議会・事務局会議の開催頻度】

協議会

4回以上	18校区	6%
3回	45校区	15%
2回	147校区	49%
1回	85校区	29%
0回	2校区	1%

おもな討議内容

事業・会計の計画や報告の承認、
催しの企画、組織編制、事業趣旨の説明

事務局会議

10回以上	38校区	13%
6～9回	67校区	22%
3～5回	150校区	50%
2回	33校区	11%
1回	8校区	3%
0回	2校区	1%

おもな討議内容

情報誌の編集、学校支援協議
行事・活動の企画、関連団体の連絡調整

《協議会の組織と今年度の活動の柱を紹介》

清明丘



3: コーディネーターの役割について

はぐくみネットでは、学校・家庭・地域をつなぎ、総合的な教育力を発揮することをめざしています。そのためにつなぎ役が、各校区で活躍する、市民ボランティアであるはぐくみネットコーディネーターです。

各校区で活動していると、いろいろな課題や悩みが生じると思います。そこで、各校区の事例発表のほか、コーディネーター間の悩みややりがいなどを知ることができる研修会や交流会を開催しました。

(P ~ 参照)

各校区からの報告書では、担い手の不足によるコーディネーターへの負担の集中や、後継者の不足を課題に挙げる校区が多くありました。ただ、一方では、今後の活動を見据えた後継者の育成に取り組んでいる校区もあります。

【コーディネーター活動の課題と成果】*****

【課題】

- ・コーディネーターなど、推進していく新しい人材の発掘が、なかなかスムーズにいかない。(大開)
- ・コーディネーターのメンバーのほとんどが地域の団体の役職を兼務しており、年々学校の負担が増大している。(味原)
- ・若手スタッフ育成によるコーディネーターや事務局員の補充、継承が最大の課題である。(歌島)
- ・スタッフとして関わる人、特に中心となる人材は同じ人がかぶってしまうことが多く、仕事や責任が集中しがちである。(西淡路)

【成果】

- ・今年度はスタッフの育成に力を入れてきました。事務局会議を増やし、活発な意見を取り入れながら各事業に取組み、広報誌も充実できました。今年度のまとめの資料を作成する際や、来年度の取組みについての話し合いでも、次々に出てくる提案に、8年間それぞれが自分の意思で「無理なく楽しんで」活動してきた成果の現われと思っています。(東淡路・柴島)

2) 保護者・地域への情報発信

1: 情報誌の配布について

各校区の発行部数は、児童数・所帯数・配布方法などによって異なりますが、297 校区を合計すると発行回数延べ 1,266 回、1,437,278 部となりました(1 校区平均約 1,135 部/回)。

配布方法として、地域には、町会での回覧を利用している校区が多くなっています。また、保護者には、学校で子どもを通じて配布している校区が多くあります。

【情報誌の配布先(重複回答)】

地域の各家庭	277 校区	93%
町会回覧	216 校区	73%
全戸配布	39 校区	13%
町会回覧と全戸配布を組合せて	26 校区	26%
子どもを通じて保護者へ配布	280 校区	94%
小学校児童から	278 校区	93%
中学校生徒から	11 校区	4%
関係先配布	253 校区	85%
町内掲示板	146 校区	49%
近隣の学校園	182 校区	61%
中学校	145 校区	49%
幼稚園・保育所	96 校区	32%
特別支援学校	6 校区	2%
その他(区内の他の小学校等)	63 校区	21%
校区内の施設や店・病院などに置き、持ち帰ってもらう	30 校区	10%
その他(校医、旧校長・教頭、学校評議員、交番、校区内 N P O 等)	27 校区	9%

2: 情報誌作成の工夫について

人と人とのつながりで子どもをはぐくむ「教育コミュニティ」づくりをすすめるためには、子どもの健全育成に関わる情報が、地域で広く共有されることが大変重要です。

そのためには、高齢者や一人暮らしの方々など、普段子どもたちとの接点のないの方々にも興味を持って読

んでいただけるような紙面づくりも重要です。各校区では、地域の歴史やまちの職人さんを紹介したり、どなたでも参加できるイベントなどの告知、栄養教諭による健康レシピの紹介など、さまざまな工夫がされています。

このように情報の共有化と、だれでも参加できるという公開性を進めるための手段として、情報誌の発行は大変重要です。

教育委員会では、平成 14 年度の事業開始以来、校区の連絡会議や研修会など、さまざまな機会を通じて情報誌の作り方や各校区のアイデアや工夫などを紹介してきました。その内容については、毎年発行している事業報告書においてまとめていますので、ぜひご参照ください。

さらに、教育委員会では、各校区から送っていただいた情報誌を保存しており、開庁時間内に市役所内で見えていただくことができます(事前にご連絡ください)。

また、各区役所や総合生涯学習センターおよび、4 つの市民学習センター(弁天町・阿倍野・難波・城北)でも、各はぐみネットで作成された情報誌やチラシを見ただけです。そして、情報誌展(P 参照)を開催するなど、より気軽に見ていただく機会も設けていますので、ご活用ください。

【実践例】*****

《地域のお祭りを大々的に告知》

南津守



《学校・家庭・地域の活動に関するガイドブックを作成》

阪南

《子どもたちの遊び場 地域の公園をご紹介》

中大江



季節の公園の様子のほか、公園を会場に実施しているイベントの様子も報告

《読み語りグループによる特別号を配布》

日ごろの活動報告のほか、6年生への読み語り指導や、絵本に関わる講演会の様子などを紹介。



神津

《地域のクラブ活動ガイドブックを作成》

木川

《ココドコ? 校区の場所当てクイズを掲載》

- 育和 -



地域の活動が一目瞭然



《地域の俳句大会の作品を掲載》

- 豊崎 -



「私の作品載ってるねん」と、読者を増やす工夫。

最近は、自分の住んでる地域の町会長さんを知らない人が意外と多いので...

《校区内の子ども会の活動を一齐紹介》

- 諏訪 -



活動の様子のほか、子ども会の役員さんや保護者の生の声を掲載して、参加をアピール!

《校区の町会長さんをご紹介》

- 日東 -



《給食試食会の報告に併せて、給食のできるまでを詳しくご紹介》 - 新北島 -



3:情報誌の成果と課題について

【情報誌の成果】(重複回答)

- はぐくみネットの趣旨が地域に広まってきている……………239 校区 80%
- 学校の様子、地域の諸団体の活動内容やお知らせを地域の人に知ってもらえた……………287 校区 97%
- 学校教育を支援してくれる人を募集できた……………168 校区 57%
- その他……………51 校区 17%

【情報誌の成果】*****

- ・情報誌の編集会議は、情報交換の大切な場となり、それが内容にも反映されている。(中大江)
- ・九条の歴史について講師を招き、史跡等をフィールドワークして巡った。そこで見学したことをもとに、情報誌を作成した。(九条北)
- ・新しいマンションが建ち、地域となじみのない人が増えている中、情報誌を通じて地域・学校の活動や催しを知り、参加する人が増えてきた。(五条)
- ・情報誌の町会への回覧により、学校や地域の子どもを中心とした行事や活動内容が広く伝わり、地域からの問い合わせも多くなってきている。(大江)
- ・毎年定例の記事も、15名の編集者がローテーションしているので、目線を変えて発信することができた。また、地域の高齢化に伴い、できる限り大きな字でわかりやすく、文字ばかりではなく写真を取り込みながら情報を提供した。(東淡路・柴島)
- ・じっくり読みたいという要望にお答えし、現在は全世帯約 2,800 戸に配布している。地域で活動する人材や特産品を製造する職人さんを紹介し、学校で、ゲストティーチャーとして子どもたちに色々なことを教えていただいている様子を紹介することで、学校と地域をつなぐ重要な役割を果たしている。(東小路)
- ・「学校図書館活性化事業」のボランティアを募集したところ、図書館司書の経験を持つ方が参加していただくことになった。情報誌が役立った事例のひとつである。(清水丘)

【情報誌の課題や今後の取り組み】*****

- ・広報誌は、現在コーディネーターさん一人で作成しているため、大変ご苦労をかけていると思う。組織として、バックアップできる体制をとる必要がある。(都島)
- ・毎年、年度はじめに、「はぐくみネットとは」という内容の情報誌を発行していく必要を感じる。広報誌の内容に、地域の小さな出来事なども今後も掲載するなどの工夫をし、読み手に身近に感じる記事を考えていく必要がある。また、安全面に関する記事なども工夫し掲載することも大切かと思われる。(佃南)
- ・地域の組織がどんな活動をしているのかは情報誌を通じて理解が図られた。今後、情報誌が「何を」情報宣伝していくのかを考えてみたい。特に、ボランティア活動への感想やお礼などを中心に子どもの声が具体的に形になるようにしていきたい。(神津)

4:Web ページの開設について

Web ページは、最新の情報を提供することができるうえ、配布の手間がかからないなどのメリットがありますが、地域の中にはインターネットになじみのない方も多いため、いずれの校区も情報誌と併用しています。

また、大阪市教育委員会では、はぐくみネットの Web ページを設けています。事業の趣旨のほか、各校区の取り組み内容についてもご紹介していますので、ぜひご活用ください。(詳細は P 参照)

各校区の Web ページについても、はぐくみネットの Web ページにリンクを貼っており、そちらからご覧いただけます。ぜひ、ご参照ください。



- 勝山 -



- 安立 -

3) 学校教育支援に関わる取組みの状況

1: 学校教育支援に関わるボランティアについて

授業やクラブ活動、学校行事などに、保護者や地域の方(以下、ボランティアと表現)の参加・協力を得る機会が多くなってきています。

多くの大人の力が必要な場面で子どもをサポートするなど、ボランティアの参加・協力により、子どもの学習活動の内容をより深めることができます。

各校区では、おもに次のような内容のボランティアが取り組まれています。

- ・栽培活動支援(花壇の植え替え、稲作体験など)
- ・家庭科授業補助(調理実習・裁縫など)
- ・読書活動支援(絵本の読み聞かせ、図書室開放)
- ・盆踊り、民踊指導
- ・クラブ活動の指導
- ・伝統文化の指導(茶道、華道、書道など)
- ・昔遊び、地域の歴史、戦争体験の伝承
- ・登下校見守り活動
- ・校庭の芝生緑化活動

など

学校を支援するボランティア活動は、学校側のニーズと地域の力が必要なときに会うことが大切です。

そのためには、学校と地域が日ごろから情報を共有していく取り組みが重要であるとともに、学校は「こんなときに、こんな支援がほしい」など、具体的にニーズを発信していくことが大切です。

学校支援ボランティアは、子どもたちにとっては、日常生活では体験することのできない「本物」に触れる貴重な機会になるとともに、保護者や教員以外の大人と触れ合うことにより、多様な人々との人間関係の作り方を学ぶことができます。

また、ボランティアの大人にとっては、仕事や生涯学習・スポーツなどで培った知識や技術を活かすことを通じて、生きがいを得ることができます。

学校を支援するボランティアの活動は、開かれた学校づくりを進め、子どもたちが「生きる力」を身につけていくためにも、ますます重要になっており、学校のニーズと地域を効果的につなぐコーディネーターが果たす役割もまた重要になっています。

【ボランティアの人数】*****

学校教育に関わるボランティアは、今年度、297 校区の実人数の合計で 56,423 人となりました(1 校区平均 190 人)。

ボランティアの内訳、およびその成果は下記のとおりとなりました。

【活動の内訳と実施校区】(重複回答)

子どもの安全確保のための見守りとして(校外活動の付添、登下校の見守り、学校行事での校門での受付等)

……………292 校区 31,609 人

授業やクラブ活動にゲストティーチャーとして

……………251 校区 5,826 人

学校行事にゲストティーチャーとして、または、共に出演して……………191 校区 5,083 人

読書活動支援や休み時間等の読み聞かせ・図書館開放支援……………225 校区 3,398 人

地域でのボランティア活動やキッズマートなどの受入れや実施……………109 校区 3,095 人

校外活動の付き添いとして……………115 校区 2,316 人

その他(栽培活動・清掃活動支援、等)

……………197 校区 6,875 人

《ゲストティーチャーを招いての授業の様子を紹介》

- 城東 -



地域の方との昔遊び、福祉施設による施設体験や、生涯学習ルームの方々と卒業式に向けてのコサージュづくりなど。

2:学校教育支援の成果と課題について

学校教育への支援の成果として、「子どもと地域の人との交流が深まった」という声が特に多くありました。

その成果と課題は、次のとおりです。

【学校教育支援の成果】(重複回答)

多くの人が学校に関わり、教育内容が豊富になった ……242 校区 81%
子どもと地域の人との交流が深まった ……278 校区 94%
学校教育へ保護者・地域から意見を得やすくなった ……181 校区 61%
環境整備が進んだ ……77 校区 26%
その他 ……38 校区 13%
(「学校への理解が深まった」「学校に対する関心が高まった」など)

【ボランティアの成果】*****

- ・クラブ活動支援、夏の盆踊りや昔遊び、火おこし等、多くの方が支援に関わるようになった。(海老江東)
- ・まだまだ地域人材の宝庫である本地域において、さらに効果的な学習活動を進める。特に「大阪が好きになる」学習の創造に努めたい。(神津)
- ・今年度から、管理職だけではなく、事業に係わる学年の先生方とはぐみの事務局、地域の方を交えて、準備段階から話し合いの場を設けたことにより、スタッフ側の意思疎通ができて、子どもたちにより良い事業をすることができた。また、同じメンバーで反省会をし、地域の方も戸惑うことなく参加できる環境を作ることができた。どんな事業を開催しても、多少の感動や成果は上がるが、一步踏み込んで事業を盛り上げることにより、地域の方に今後も支援していただける絆が深まった。(東淡路・柴島)
- ・地域の方が学校教育活動に参加する人数が増えた。事前に学校便り等を通して、活動内容を知らせ、参加できやすい体制を整えたことと、継続してきた取り組みの成果であると考えられる。(常盤)

【ボランティアの課題】*****

・ときわっ子ネットの学校側の担当者が毎年代わるので取り組み内容の引き継ぎを丁寧にしていく必要がある。教育協議会では、地域との連携が不可欠なので引き継ぎが円滑に行われていないと地域に不信感を生むことにもなる。今後、この取り組みが充実していくためには、地域の力を生かしていくことも大切だが、まずは、学校の体制作りをきちんとしていくことが重要である。(常盤)

4)学校と地域をつなぐ活動について

1:中学校との連携について

学校行事等で小学校と中学校が連携して子どもが交流する実践は、257 校区 87 %で実施しています。内訳は次のとおりです。

小学生が中学校を訪問

主な連携例:クラブ活動の見学・体験、生徒会による学校紹介、授業参観、学校見学会、文化祭・運動会見学など

中学生が小学校を訪問

主な連携例:生徒会・児童会交流、職場体験、訪問授業など

同じ地域で育つ子どもであり、小学校の後輩と先輩でもある小学生と中学生が交流することは、小学生にとっては中学校に上がる不安の解消に、中学生にとっても自らの人生を振り返り、今後の進路などについて見つめなおす良い機会となります。

また、平成 21 年度からは中学校区での学校・地域・家庭の連携をめざした「学校元気アップ地域本部」事業が実施され、平成 22 年度は各区に1校区が開設されています(平成 24 年度に全中学校区で開設予定)。はぐみネットは、小学校区における組織として、学校元気アップ地域本部と連携しながら、相乗効果によって地域の子もたちをはぐんでいくことが期待されています。

2:学校教育へのアンケートについて

学校教育について保護者や地域の方々から意見を
得、その結果を踏まえたうえで、保護者や地域の方々の
協力を得ながら改善をすすめていくことは、学校教育
の透明性を確保し、その説明責任を果たすために
も重要です。

各校区のはぐくみネットでは、協議会や事務局会議
での話合いの他、一般の参加も交えての教育懇談会
等の開催や、学校教育へのアンケートなどを行って
います。

【学校教育へのアンケート】(重複回答)

学校評価アンケート	270 校区	91%
(回答者)		
・保護者	251 校区	85%
・児童	216 校区	73%
・地域の関係者	104 校区	35%
・教職員	146 校区	49%
・その他(PTA実行委員・学校評議員等)	16 校区	5%
アンケートは実施していない	14 校区	5%

【アンケート実施 実践例】*****

- ・「地域アンケート」を実施することにより、学校教育の
内容やはぐくみネットの活動について、地域住民の
思いや願いをつかみ、改善の方向性を探ることがで
きた。(東中川)
- ・学校評価アンケートでは、中間評価を実施すること
により、年度途中における変更・修正をおこなうことが
でき、より実態に即した教育活動を実践することが
できた。(晴明丘南)

3:他事業と連携した取組みについて

はぐくみネットが、学校・家庭・地域が一体となっ
て地域の子どもをはぐくむという目的を果たしていく
ためには、地域で行われている諸活動との連携を広
げ、強めていく必要があります。特に、生涯学習ル
ーム事業や、学校体育施設開放事業、児童いきい
き放課後事業、学校図書館活性化事業といった、
同じ学校を拠点とする事業との連携は、今後も強め
ていく必要があります。また、地域の商店や、企業、

NPOなど、専門性の高い団体・組織との連携によっ
て、活動の幅を広げていくなど、地域の教育力を向
上させ、小学校区における「教育コミュニティ」づくり
を推進していく必要があります。

【他事業と連携した取組み】(重複回答)

生涯学習ルーム事業と連携した取組み	197 校区	66%
区内の図書館と連携した取組み	131 校区	44%
学校体育施設開放と連携した取組み	110 校区	37%
いきいき放課後事業と連携した取組み	80 校区	27%
NPO・地元企業・商店街・高校・大学と連携し た取組み	96 校区	32%
その他	29 校区	10%

5) 子どもの安全を守る取組み

1:地域・保護者の見守り活動への参加・参画

子どもが被害にあう事件が続いていることから、はぐ
くみネットでも子どもの安全を見守るさまざまな取組み
が実施されています。その一環として、「立ち番活動」
や「巡視活動」が、296 校区で実施されました。

「立ち番活動」では、日常的に活動している人数は
1 校区平均 18 人。「巡視活動」では、1 校区平均 11
人でした。

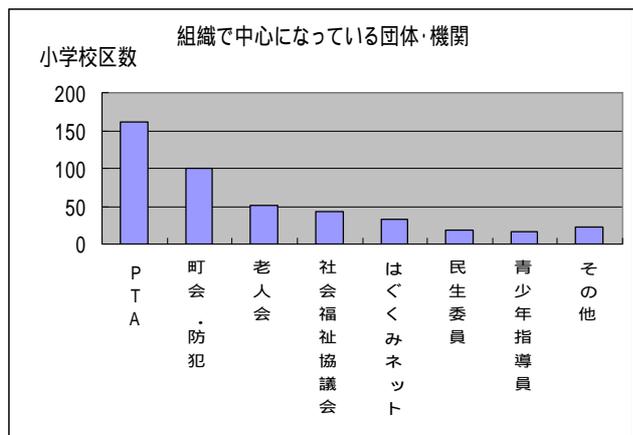
【登下校時の子どもの見守り】(重複回答)

1. 立ち番活動	279 校区	94%
2. 巡視活動	212 校区	71%
【内 訳】	立ち番活動 (279 校区中)	巡視活動 (212 校区中)
(1) 頻度		
毎日	69%	39%
毎週日を決めて	15%	11%
毎月日を決めて	10%	20%
その他日を決めて	9%	30%
(2) 時間帯		
登校時のみ	24%	7%
登校時と下校時に	64%	28%
下校時のみ	11%	15%
放課後に	1%	21%
時間を指定せずにできるときに	8%	32%

児童の安全見守り活動も数年が経過し、日常的に腕章やジャンパーを付けた方々が交差点などに立ち、児童と交流している光景が見られるなど、活動が地域に定着してきています。また、学校で見守り隊の方々へのお礼の集会を開いたり、児童から感謝の手紙を渡すなど、活動を継続していくための工夫も見られるようになってきています。

【見守り隊の中心になっている団体の内訳】

見守り活動は、地域の協力者や団体で組織されており、次のような団体・機関が中心となって活動しています。



【見守り活動の成果】*****

- ・今年度は改めて一から「子ども見守り隊」を結成しなおしました。そのよびかけに想像以上の方々の協力を得ることができ、日々子どもたちの登下校を見守っていただいています。時に子どもの事で気になることがあれば学校まできてくださってお話をしてくださったりもしています。(加島)
- ・地域安全ステーションの活動をスタートし、定期的な情報交換とともに、子どもの見守り活動の推進を行うことができた。参加者も多様化し、本地域の課題も明確になってきている。連合町会の方々や防犯などの地域の方を中心に有意義な話し合いの機会を持っていると評価をいただいている。(栄)
- ・登校時の交通安全見守り活動で、地域に事業所を持つ宅配会社の協力を受けた。新学期開始時の登校見守り活動を、保護者と共に社員の方にも参加して頂いた。(難波元町)

・見守り隊については毎年改善点を話し合いながら進めている。来年度、今まで参加していなかった町会も参加予定。(大成)

《被害発生状況をグラフで掲載》

- 新庄 -



《地域の安全に関わる情報をまとめて紹介》

- 神津 -



《見守り隊の歩みや隊員の思いを詳しく報告》

- 北中島 -

「あいさつしてくれるようになって嬉しい」「信号無視など大人のマナーの悪さが気になる」など、さまざまな意見が。



2:子どもの安全を守るためのその他の取組みの工夫について

大阪市教育委員会では、これまで「子ども安全メール」の配信を行ってきましたが、平成21年3月末で終了し、平成22年4月より、大阪府警察本部の「安まちメール」を活用しています。「安まちメール」は、警察が事件を認知した容疑段階で、事件概要を登録者の方へ配信することで、自主的な防犯対策に役立てていただくことを目的に実施されているものです。立ち番・巡視活動以外にも、こういった情報の活用も含めて、各校区ではさまざまな工夫をしています。

「安まちメール」登録方法

大阪府警察本部ホームページから登録していただくか、直接以下のアドレスに空メールを送信していただくことで登録ができます。

touroku@info.police.pref.osaka.jp

【子どもの安全を守る取り組み】(重複回答)

情報誌で地域に声かけを依頼・・・212 校区 71%
「子ども 110 番の家」との連携・・・114 校区 38%
自転車の前かご等にステッカー・プレートをつける方を地域に募集・・・188 校区 63%
防犯教室等の開催・・・85 校区 29%
その他・・・23 校区 8%
(安全ワッペンづくり、地域安全ステーションなど)

6)「地域における教育コミュニティづくり」に関する取組みの状況

1:放課後や休日に、子どもと大人が出会い、交流する活動と成果について

活動件数は合計 1,391 件(1 校区平均 5 件)でした。実施日数は計 10,681 日(1 校区平均 36 日)。延参加者は子ども約 500,000 人、大人約 383,700 人、計約 883,700 人でした。このうちスタッフとして参加・参画しているのは、延人数で子ども約 9,800 人(参加者の約 2%)、大人約 138,000 人(参加者の 36%)でした*。

今年度は、中止せざるを得ない行事が出るなど、新型コロナウイルスの大きな影響がありました。活動の内容としては、地域恒例の夏祭りや盆踊りなどといった行事のほか、校庭開放、校庭キャンプ、プール、ス

ポーツクラブなどが多く実施されています。

活動の内容については、各はぐくみネットの活動内容をまとめた一覧表の中で掲載していますのでご参照ください(P ~)。

【放課後や休日の活動の成果】(重複回答)

地域・家庭と学校が一体となって、子どもを育てていく意識が高まった・・・242 校区 81%
活動を通して、子どもと地域の方との交流が深まった・・・268 校区 90%
地域の諸団体・諸事業相互が連携した取組みが盛んになった・・・177 校区 60%
その他・・・28 校区 9%

*既存の地域の活動を、どこまではぐくみネットの取組みに含むかについては明確な基準がないため、上記の回答は各校区の判断で報告されています。そのため、たとえば子ども会のスポーツクラブを記入している校区もあれば、全くしていない校区もあるなど、校区による回答に差が大きく、統計的には課題があります。

【取組み事例】*****

・例年PTAが行っていた「夏祭りゲーム大会」と、はぐくみネットが行っていた地域交流会を、本年度はタイアップし、「新庄っ子 夏まつり」として大々的に行った。このことにより、大幅に参加者が増加し、大人から子どもまで地域の幅広い年齢層が一同に集い、たいへん有意義な地域交流の場となった。(新庄)

・1月に教育懇話会を実施した。30名余りの出席があった(町会、民生委員、PTA役員OB、現役員、実行委員、幼小教職員)。規範意識の現状や今後の取組みについて話し合うことができた。(東中本)

・地域支援の防災訓練を学校で実施し、消火器や簡易トイレの使い方、その他非常物資等について学習することができた。児童一人ひとりが非常時の対応を身につけ、貴重な体験をすることができた。地域防災担当や婦人部、生野区役所の協力を得て、大変な成果があった。(生野)

・7月25日、26日と墨江小を借りて、学校に泊まるのを企画。参加した5、6年生から来年も来たいという声をもらった。教職員にも手伝っていただき、大変有意義な行事になりました。毎年続けていく予定です。

(墨江)

・校内キャンプで立体パズルと紙ひこうき工作の時間を設定した。隣接する東住吉総合高校の生徒達が指導に当たった。連携した取り組みができた(喜連西)

《ロックフェスティバルで大盛り上がり》

- 宝栄 -



7) はぐくみネットの成果と課題

はぐくみネット事業は平成14年に調査研究事業として10校区から始まりましたが、8年が経過した校区とまだ2~3年の校区、また地域・学校での実態など、校区の現状は異なります。ここでは、各校区のはぐくみネットからの報告を通して、活動全体についての成果と課題について紹介します。

【成果の事例】*****

- ・コーディネーターを中心に、創立記念号を含め、計画的に6回の情報誌を発行することができた。今年度は、特に地域読者を増やそうと、地域に密着した情報誌作りを目指して、紙面の改訂を重ねながら発行することができた。(大淀)
- ・インフルエンザの影響もあり、各行事について開催そのものが危ぶまれたものの、むしろ開催の意義等を議論したことにより、積極的な参加者の意識が高まった。また、配慮すべき事項についても例年以上に準備を行った。(香葦)
- ・新たに協力を申し出る団体が出てきて、はぐくみネットが子どもに関わる様々な取り組みの協議の場として認知され、定着してきた。(福)

【課題について】*****

- ・大きな共催行事は定着しているが、ある面マンネリ化してきているところもあるので、内容の見直しを図っていく。そして、この地域の力を学校教育支援に今以上関わっていくようにしていく。(中野)
- ・楽しい行事には多数の参加があるが、講演会や講習会となると参加者が非常に少ない。(明治)
- ・子どもの少子化により休み中の参加が少なくなってきた。様々な場面で声かけをしているが、さらに広報の仕方を工夫する必要がある。(港晴)
- ・これまでも地域の方々との交流の場を設けてきた。しかし、子どもたちが「してもらっている」という感がある。今後、子どもたちからどんどん発信していくような交流の場を計画していきたい。(長居)
- ・校内キャンプについて、企画書や案内書、依頼書等次年度に引き継げる書類が整理されていない。長年の経験で口伝えでされているところが大部分のため、反省を生かす等ができていない。(喜連西)
- ・新しい活動を展開したいと考えているが、予算や関係者の時間的な余裕がなくなっている。子どもと地域の方との交流は、見守り活動や教育支援などでとても深くなってきているが、子どもの保護者と地域の方との交流に広がっていない。(西三国)

【今後の取り組みについて】*****

- ・新築の集合住宅が急増したことに比例して、多くの途中転入者があった。新規住民にも学校と地域連携の重要性を認識してもらうために、広報活動の充実に努めていきたい。(桃陽)
- ・この5年間は学校が中心となってはぐくみの取り組みを進めてきたが、地域には多彩な人材がおられるので、地域が主体となって取り組めるよう工夫することが必要である。(十三)
- ・見守り活動の見直し会議を開いたところ、これまで町会と、PTA や、子ども会の連携が出来ていると思っていたが、そうではない事に気付かされた。それぞれの諸団体はきっちり住み分けをして、積極的に活動しているが、連携が取れていないので、もっと、諸団体の活動を細かく理解しあい、コミュニケーション作りの工夫をしていかなければならない。(育和)

平成 23 年 3 月 28 日
平成 22 年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会資料
於：大阪市立中央図書館
教育委員会事務局指導部初等教育担当（学力向上グループ）

学校図書館支援モデル事業・学校図書館活性化事業のまとめ

1. 事業の趣旨

学校・家庭・地域が連携して、児童が最も身近に本に接する場所である学校図書館の整備をはじめとする読書環境の充実を進め、児童の読書意欲の醸成と読書習慣の確立を図る。

2. 事業の背景および経過

大阪市教育委員会では、平成 18 年 3 月に「大阪市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちが自主的に読書に取り組むことができるよう、家庭・地域・図書館・学校が連携・協力して子どもの読書環境の整備・充実に努めてきた。その一環として、平成 18 年度より「学校図書館支援モデル事業」を実施して、学校図書館の開館時間の延長をはじめとする児童の読書環境の整備に取り組むこととした。

平成 18 年度は 24 校、平成 19 年度は 48 校が本事業を実施し、学校図書館の開館時間の延長、書架の整理、掲示物の作成、図書の修理、読み聞かせの実施等に取り組んだ。

実施校からは、図書館を利用する児童数や貸出冊数の増加、読み聞かせ等による読書意欲の向上や話を聞く態度の醸成、書架の整理や図書の修理等による、本を大切に意識の向上といった成果と、ボランティアの募集や、モデル校の取り組みを蓄積し未実施校に伝達する必要性などの課題が報告された。

一方、平成 19 年度に実施された、「全国学力・学習状況調査」の結果分析によると、本市児童生徒は、思考力・判断力・表現力等が問われる読解や記述式の問題、知識・技能を「活用」する問題における課題、読書が好きと回答した児童生徒の割合は全国平均より低く、さらに家や図書館で普段、読書を全くしていない児童生徒の割合は全国平均より高いという課題が明らかとなった。

「学校図書館支援モデル事業」の成果と課題を引き継ぎ、さらにこうした背景をふまえ、平成 20 年度より新たに「学校図書館活性化事業」を実施している。

「学校図書館活性化事業」は、平成 20 年度 102 校、21 年度 210 校、22 年度は全校での実施となっている。

3. 「学校図書館支援モデル事業」から「学校図書館活性化事業」へ

「学校図書館活性化事業」では、「学校図書館活性化事業」の課題を受けて、以下のよう

な実施体制の充実等を図った。

支援体制の充実

教育委員会事務局内に司書を配置し、小学校担当（主任）指導主事および市立図書館との連携を図り、よりきめ細かな支援体制を構築した。

学校図書館支援ボランティア講座の体系化

これまで、各校が市立図書館と連携して行っていた学校図書館支援ボランティア講座を体系化するとともに、基本的なマニュアルを作成する等、内容の均質化を図った。

実践交流会の各区単位での開催

実践交流会を各区単位で開催するとともに、参加対象を実施校ボランティア、教職員、および未実施校教職員とした。

4. 「学校図書館活性化事業」の今後の展開について

「学校図書館活性化事業」は、3カ年で当初の目的である全校実施に至ったが、引き続き児童の読書環境の一層の充実が必要であり、平成23年度も継続して実施されることとなっている。

5. 中学校における読書環境整備の状況について

学校・家庭・地域が組織的に連携するしくみをつくり、より効果的な学校支援による学力向上や地域コミュニティ作りを進める「学校元気アップ地域本部事業」を平成21年度より実施している。

実施校では各校の実情にあわせて、放課後や長期休業中の学習支援、部活動支援、学校図書館整備や読み聞かせ等を、地域のボランティアの協力を得て実施している。

この事業は、平成21年度は8中学校区、22年度は24中学校区で実施しており、平成24年度をめどに全中学校区での実施をめざしている。

また、平成22年11月より、「中学校読書環境整備支援」を開始している。

各校の要望に対して、教育委員会事務局内の司書が、また、「学校元気アップ地域本部事業」実施校は、教育委員会内事業担当者、学校元気アップ支援員等とも連携して、書架配置や図書配列の変更、学校おはなし会の実施等を順次行っている。

平成22年度学校図書館活性化事業中間報告

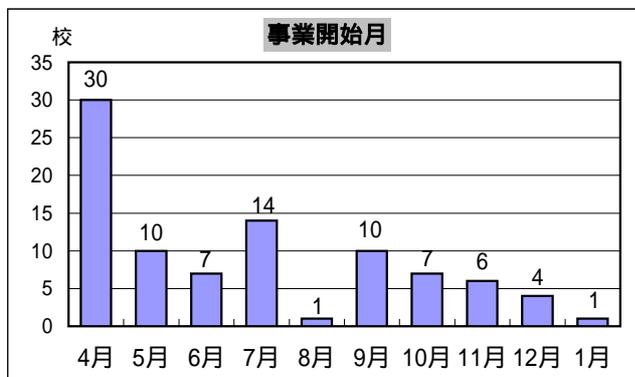
調査月：平成22年10月

対象：大阪市立全小学校299校

1. 事業開始月

4月	30校
5月	10校
6月	7校
7月	14校
8月	1校
9月	10校
10月	7校
11月	6校
12月	4校
1月	1校

平成22年度開始校90校の回答

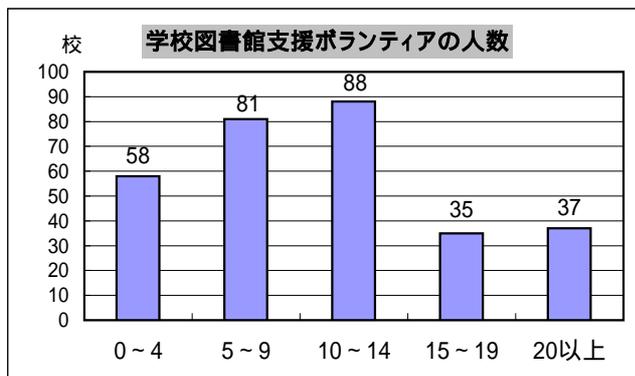


2. 学校図書館支援ボランティアの人数

ボランティア人数合計	3312名
1校あたり平均	11.1名

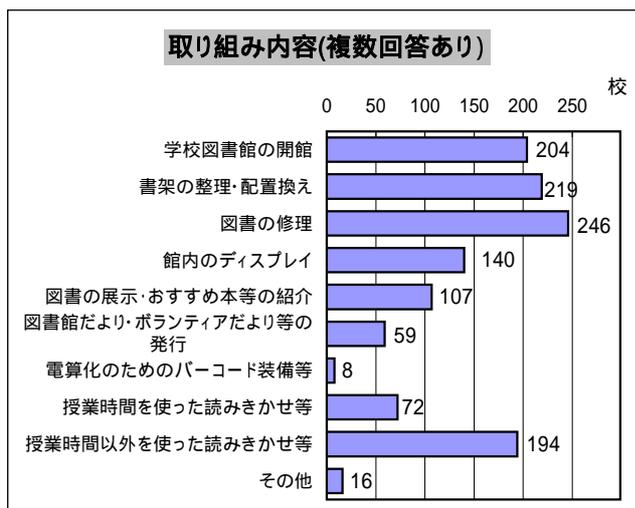
ボランティア人数(名)

0~4	58校
5~9	81校
10~14	88校
15~19	35校
20以上	37校



3. 取り組み内容

学校図書館の開館	204校
書架の整理・配置換え	219校
図書の修理	246校
館内のディスプレイ	140校
図書の展示・おすすめ本等の紹介	107校
図書館だより・ボランティアだより等の発行	59校
電算化のためのバーコード装備等	8校
授業時間を使った読みきかせ等	72校
授業時間以外を使った読みきかせ等	194校
その他	16校

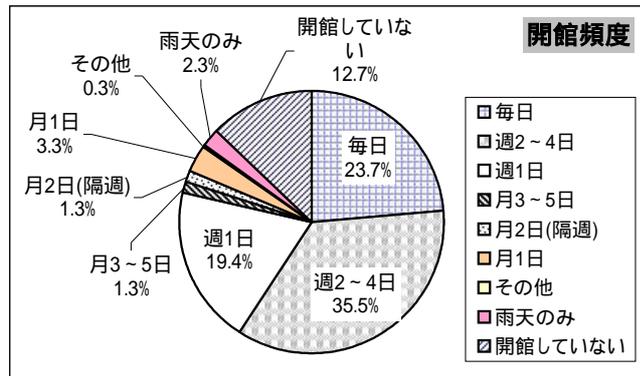


4.平成22年度の開館状況

4-1.授業時間以外の開館状況

開館頻度

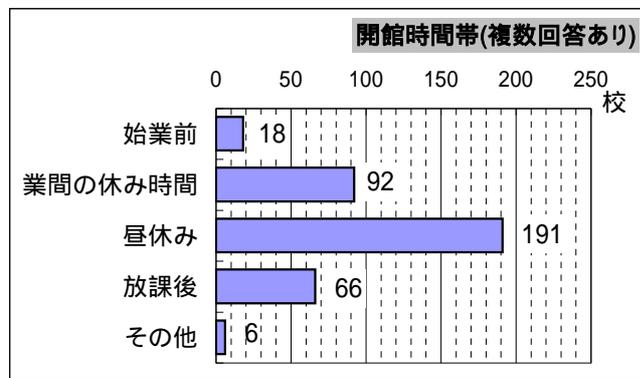
毎日	71校
週2～4日	106校
週1日	58校
月3～5日	4校
月2日(隔週)	4校
月1日	10校
その他	1校
雨天のみ	7校
開館していない	38校



開館時間帯(複数回答あり)

始業前	18校
業間の休み時間	92校
昼休み	191校
放課後	66校
その他	6校

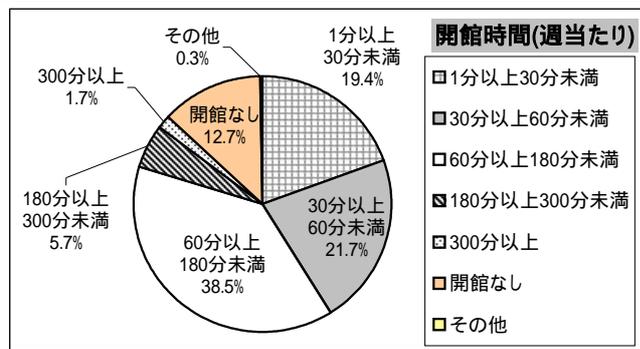
授業時間以外に開館している261校の回答



開館時間(週当たり)

合計	21174分
平均	70.8分

1分以上30分未満	58校
30分以上60分未満	65校
60分以上180分未満	115校
180分以上300分未満	17校
300分以上	5校
開館なし	38校
その他	1校



4 - 2 . 授業時間以外の開館状況(ボランティアによる開館状況)

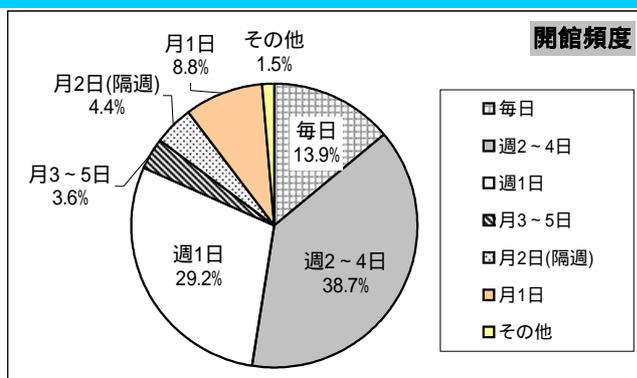
開館にボランティアが関わっている	137 校
開館にボランティアが関わっていない	124 校

授業時間以外に開館している261校の回答

開館頻度

毎日	19 校
週2～4日	53 校
週1日	40 校
月3～5日	5 校
月2日(隔週)	6 校
月1日	12 校
その他	2 校

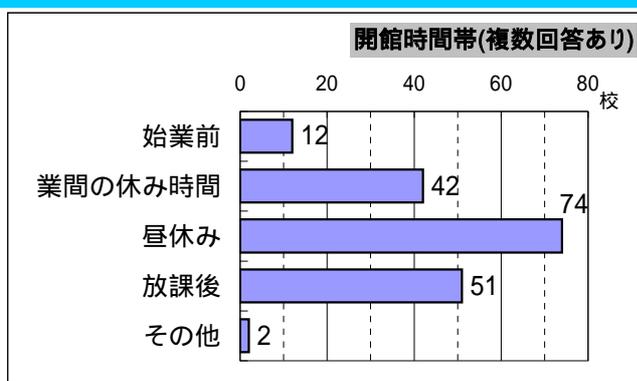
開館にボランティアが関わっている137校の回答



開館時間帯(複数回答あり)

始業前	12 校
業間の休み時間	42 校
昼休み	74 校
放課後	51 校
その他	2 校

開館にボランティアが関わっている137校の回答



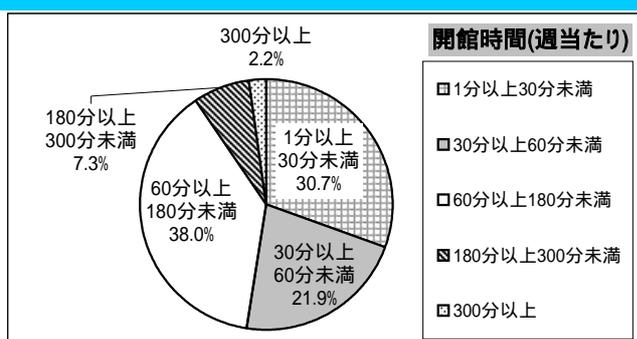
開館時間(週当たり)

合計	10404 分
平均	75.9 分

開館にボランティアが関わっている137校の平均

1分以上30分未満	42 校
30分以上60分未満	30 校
60分以上180分未満	52 校
180分以上300分未満	10 校
300分以上	3 校

開館にボランティアが関わっている137校の回答



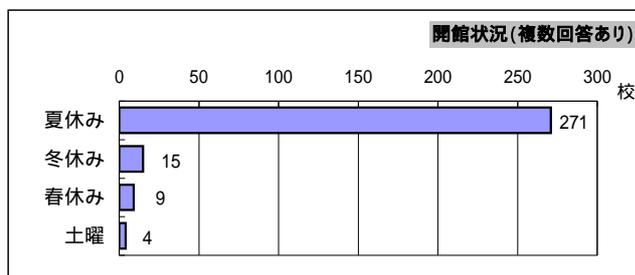
4 - 3 . 課業外の開館状況

開館した(する予定)	272 校
開館しなかった	27 校

開館状況(複数回答あり)

夏休み	271 校
冬休み	15 校
春休み	9 校
土曜	4 校

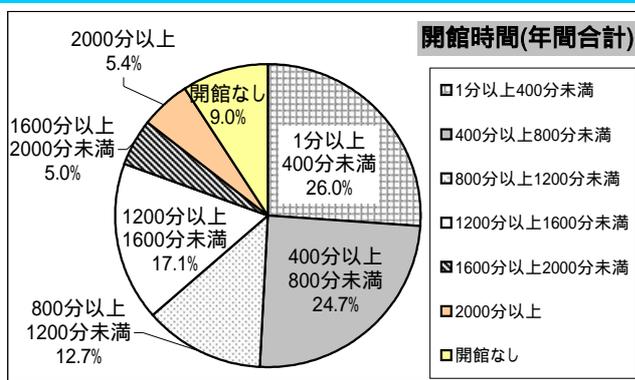
開館した(する予定)の272校の回答



開館時間(年間合計)

合計	238805 分
平均	798.7 分

1分以上400分未満	78 校
400分以上800分未満	74 校
800分以上1200分未満	38 校
1200分以上1600分未満	51 校
1600分以上2000分未満	15 校
2000分以上	16 校
開館なし	27 校



4 - 4 . 課業外の開館状況(ボランティアによる開館)

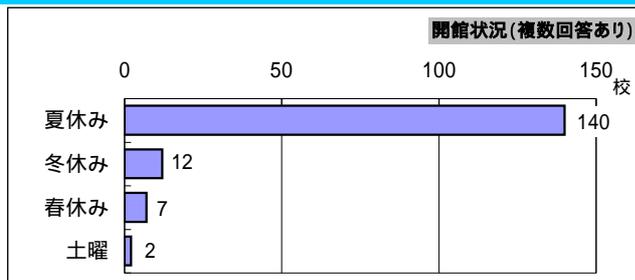
開館にボランティアが関わっている	143 校
開館にボランティアが関わっていない	129 校

開館した(する予定)の272校の回答

開館状況(複数回答あり)

夏休み	140 校
冬休み	12 校
春休み	7 校
土曜	2 校

開館にボランティアが関わっている143校の回答



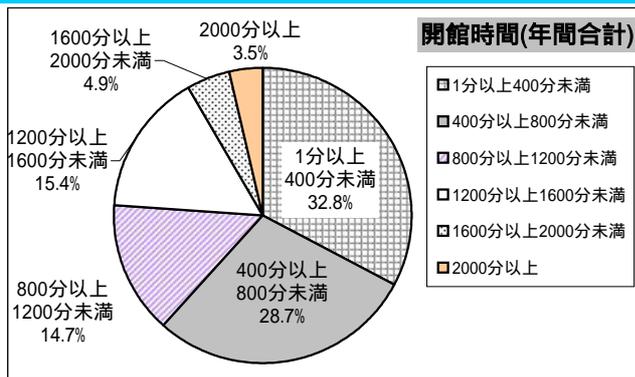
開館時間(年間合計)

合計	110580 分
平均	773.3 分

開館にボランティアが関わっている143校の平均

1分以上400分未満	47 校
400分以上800分未満	41 校
800分以上1200分未満	21 校
1200分以上1600分未満	22 校
1600分以上2000分未満	7 校
2000分以上	5 校

開館にボランティアが関わっている143校の回答



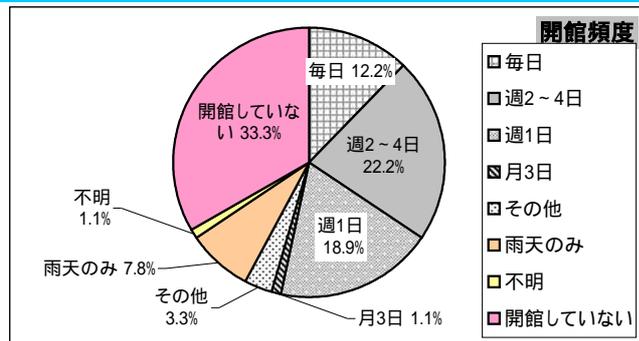
5.平成21年度の開館状況(平成22年度開始校90校の回答)

5-1.授業時間以外の開館状況

開館頻度

毎日	11校
週2~4日	20校
週1日	17校
月3日	1校
その他	3校
雨天のみ	7校
不明	1校
開館していない	30校

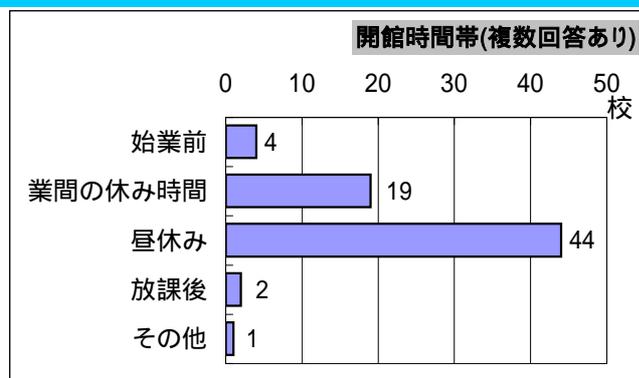
平成22年度開始校90校の回答



開館時間帯(複数回答あり)

始業前	4校
業間の休み時間	19校
昼休み	44校
放課後	2校
その他	1校

授業時間以外に開館している60校の回答



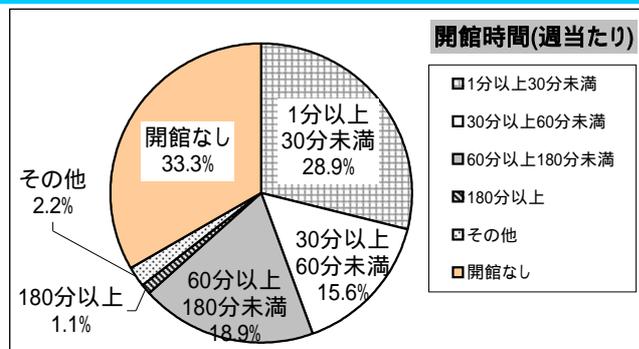
開館時間(週当たり)

合計	3065分
平均	34.1分

平成22年度開始校90校の回答

1分以上30分未満	26校
30分以上60分未満	14校
60分以上180分未満	17校
180分以上	1校
その他	2校
開館なし	30校

平成22年度開始校90校の回答



5 - 2 . 授業時間以外の開館状況(ボランティアによる開館状況)

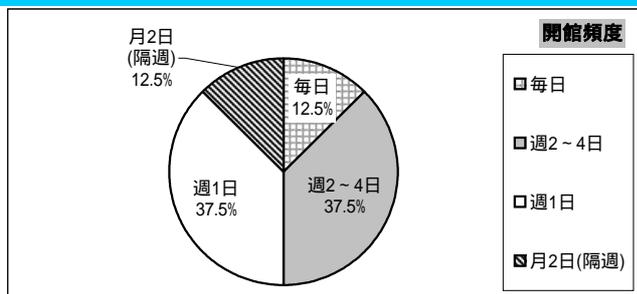
開館にボランティアが関わっている	8校
開館にボランティアが関わっていない	52校

授業時間以外に開館している60校の回答

開館頻度

毎日	1校
週2～4日	3校
週1日	3校
月2日(隔週)	1校

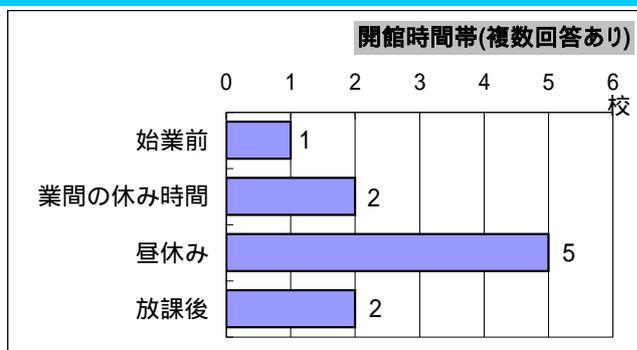
開館にボランティアが関わっている8校の回答



開館時間帯(複数回答あり)

始業前	1校
業間の休み時間	2校
昼休み	5校
放課後	2校

開館にボランティアが関わっている8校の回答



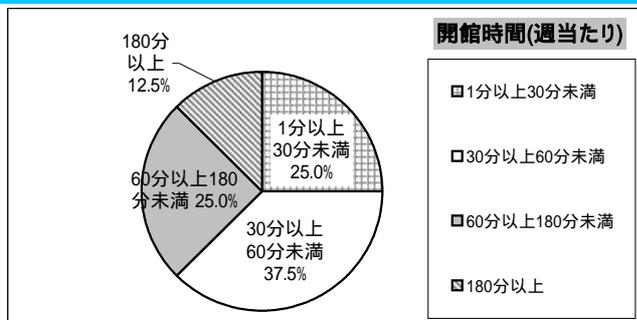
開館時間(週当たり)

合計	650分
平均	81.3分

開館にボランティアが関わっている8校の回答

1分以上30分未満	2校
30分以上60分未満	3校
60分以上180分未満	2校
180分以上	1校

開館にボランティアが関わっている8校の回答



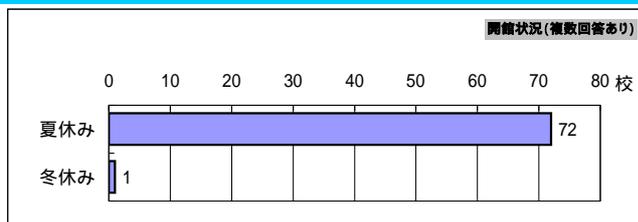
5 - 3 . 課業外の開館状況

開館した	72 校
開館しなかった	18 校

開館状況 (複数回答あり)

夏休み	72 校
冬休み	1 校

開館した72校の回答



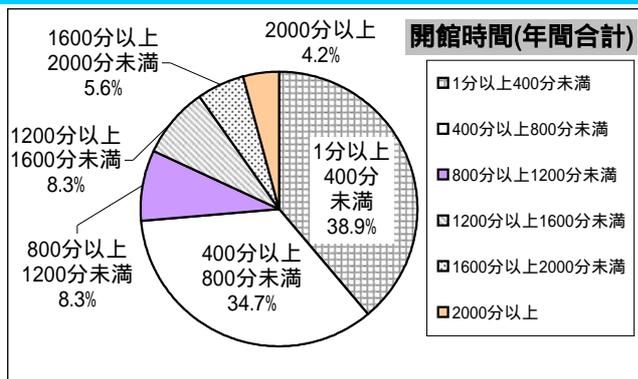
開館時間(年間合計)

合計	48350 分
平均	671.5 分

開館した72校の平均

1分以上400分未満	28 校
400分以上800分未満	25 校
800分以上1200分未満	6 校
1200分以上1600分未満	6 校
1600分以上2000分未満	4 校
2000分以上	3 校

開館した72校の平均



5 - 4 . 課業外(夏休み等)の開館状況(ボランティアによる開館状況)

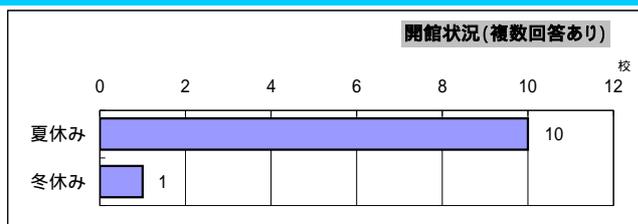
開館にボランティアが関わっている	11 校
開館にボランティアが関わっていない	61 校

開館した72校の回答

開館状況 (複数回答あり)

夏休み	10 校
冬休み	1 校

開館にボランティアが関わっている11校の回答



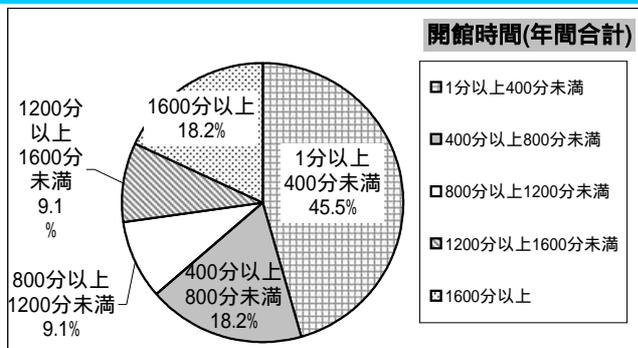
開館時間(年間合計)

合計	8390 分
平均	762.7 分

開館にボランティアが関わっている11校の平均

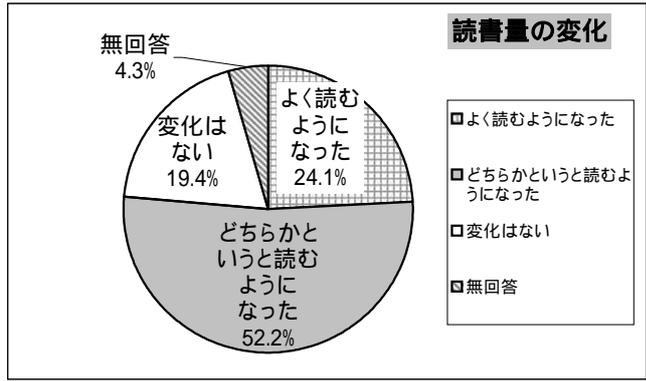
1分以上400分未満	5 校
400分以上800分未満	2 校
800分以上1200分未満	1 校
1200分以上1600分未満	1 校
1600分以上	2 校

開館にボランティアが関わっている11校の回答



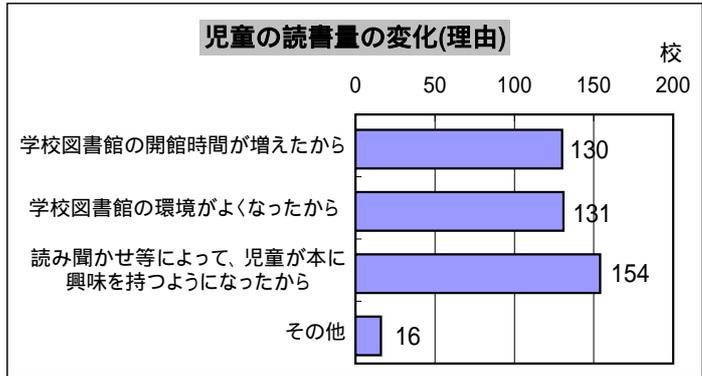
6. 事業実施前後を比較して、児童は本をよく読むようになりましたか。

よく読むようになった	72 校
どちらかという読むようになった	156 校
変化はない	58 校
無回答	13 校



6-1. その理由(複数回答あり)

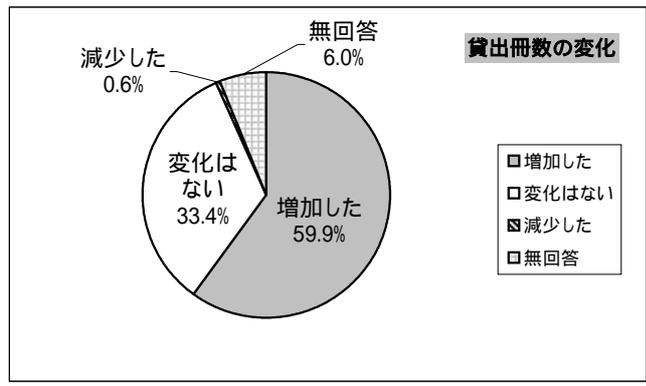
学校図書館の開館時間が増えたから	130 校
学校図書館の環境がよくなったから	131 校
読み聞かせ等によって、児童が本に興味を持つようになったから	154 校
その他	16 校



【その他意見】
 朝の読書タイムを実施したから
 朝の読書タイムを増やしたから
 国語科学習と関連する図書を並べ、見つけやすくしたから
 ボランティアが学校と地域図書館の連携にも協力してくれるから
 ボランティアさんの工夫、クイズ出題、しおりのプレゼント
 読書ノートを活用し読書への意欲を高めたから
 学級文庫の本を充実させたから

7. 事業実施前後を比較して、学校図書館での貸出冊数は増加しましたか。

増加した	179 校
変化はない	100 校
減少した	2 校
無回答	18 校



平成22年度「学校元気アップ地域本部事業」における学校図書館活性化の進捗状況（平成23年2月末現在）

	ボランティア登録者数		言語力育成の取組み	
	(3月)	(2月末)	学校図書館開館状況	一斉読書等の状況
天満	61	88	昼休み開館(週3回)、放課後開館(週2回)	一斉読書 週2～3回朝読書
桜宮	37	59	週5日、昼。週1日、放課後(2学期～)	週3回、朝読書
花乃井	40	46	週5日、昼、始業前	毎日、朝読書。 読聞かせ(学期数回)。ブックトーク
淡路	48	94	週2日、昼開館(うち週2回、地域協力あり)	一斉読書
生野	66	68	週2日、昼開館	週2回、朝読書
中野	22	35	週5日、昼開館	週4回、朝読書。
今宮	47	52	週5日、昼開館。 長期休業中、計3日間開館。	読み聞かせ(3学期実施予定)
高津	17	38	週5日、昼開館。	週1回、朝読書。 学期に1回、朝読書強化週間。
野田		14	週3日、昼開館。 図書館の整備支援。図書だよりの発行	週1回、朝読書
春日出		22	週5日、昼 長期休業中、計6日間開館	朝読書
旭陽		16	週2日、放課後開館。	朝読書
鯉江		22	週3日、昼。	毎日、朝読書
茨田		26	週3日、昼開館。 図書館の整備支援。 長期休業中、計5日間開館。	週3回、朝読書。
東		61	開館日増(火・金の放課後、水の昼休み) 「居場所づくり開館」(各学期末懇談会期間中4～5日) 長期休業中、週3日開館。	
市岡東		64	週4日、昼開館。 図書館の整備支援。 長期休業中、開館。	読み聞かせ実施 (12/15)
大正北		19	週5日、昼開館。	一斉読書
歌島		27	週1日、昼開館。	
宮原		37	毎日、昼開館。2学期以降、週2日放課後開館 長期休業中、週2日開館。	
東陽		51	週5日、昼開館。 長期休業中、計11日開館。	毎日、一斉朝読書
瓜破		42	開館(不定期)	週1回、一斉朝読書(1年生)
真住		25	週3日、昼開館。 図書館の整備支援。	
墨江丘		55	週5日、昼。 長期休業中、計8日間開館	週1回、朝読書。 読書週間の取組み。読み聞かせ
木津		8	週4日、昼開館。週3日、放課後開館。 長期休業中、計5日間開館。 図書館の整備支援。	
松虫		30	週5日、昼開館。 Vによる始業前・放課後開館の支援(週1～4回) 長期休業中、計11日開館。	毎日、朝読書
24校中 実施校数			24	19

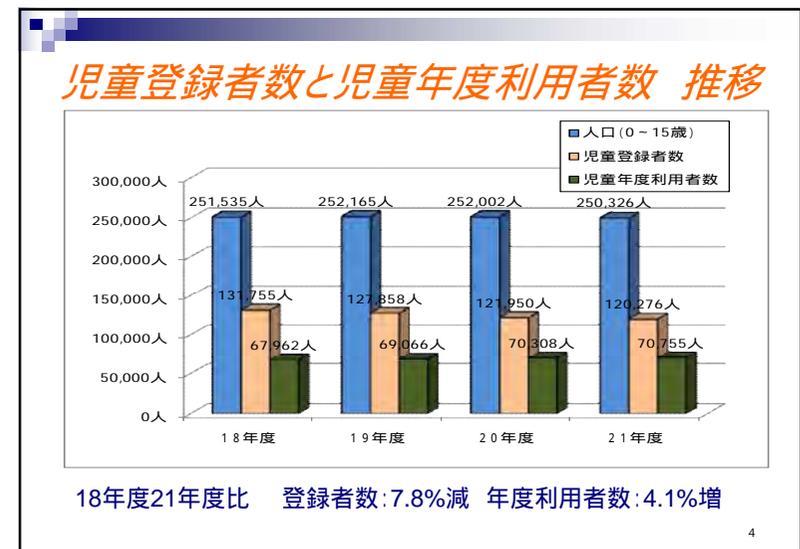
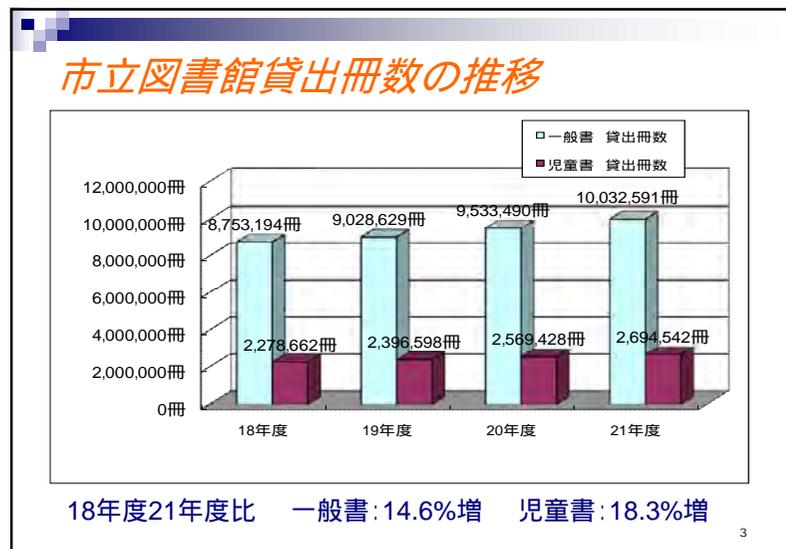
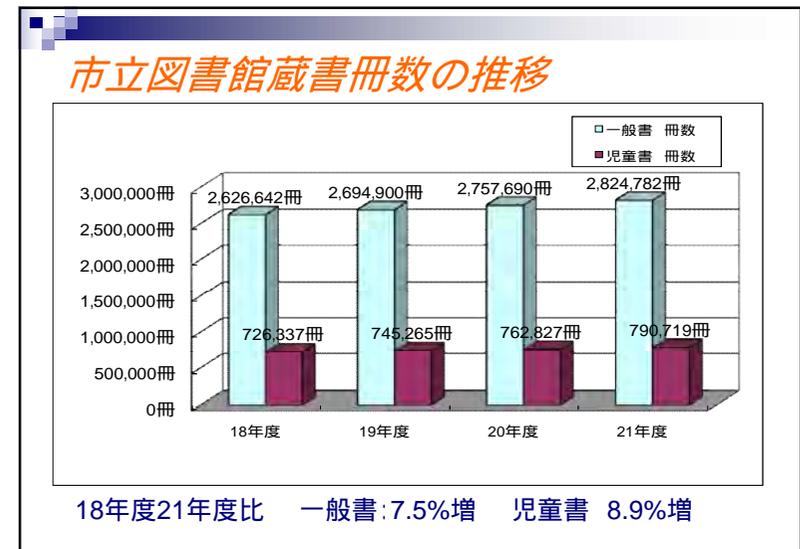
	21年度	22年度	1校あたり平均ボランティア登録者数 (学校図書館活性化以外での協力者を含む)	
21年度 開始8校	338	480		
22年度 開始16校		519	(1校平均	32.4名)
計24校		999	(1校平均	41.6名)

子ども向け 図書館サービスの展開 ～4年間の推移～

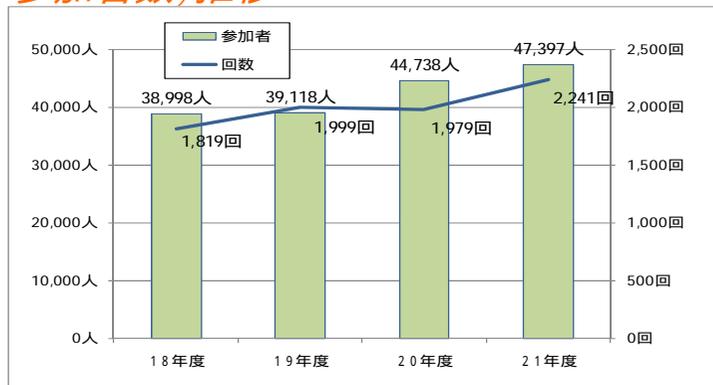
大阪市立図書館
平成23年3月



大阪市立図書館は知識創造型図書館を目指します

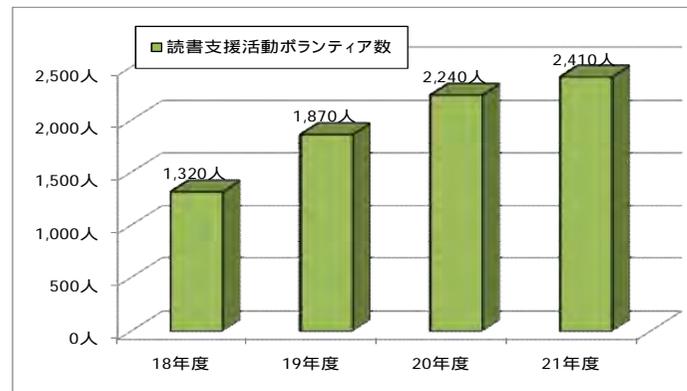


図書館での子ども向け事業(実施回数、参加者数)推移



5

読書支援活動ボランティア推移 (高齢者施設ボランティア含む)



6

図書館でのボランティア講座

中央・地域館 平成21年度

	講座数	延回数	延参加者数
図書ボランティア講座(幼児期)	1講座	延54回(*)	延887人
図書ボランティア講座(高齢者)	1講座	延48回(*)	延445人
対面朗読協力者連絡会	1講座	延12回	延161人
ティーズニング講座	1講座	延10回	延32人
ボランティア講座(学校図書館支援)	217講座	延217回	延2,081人
合計	221講座	延341回	延3,606人

(*)各區での実習を含む

7

読書支援活動ボランティア内訳

- 保育所等で読み聞かせなどを行うボランティア 1,020人
- 高齢者福祉施設で本の貸出や朗読などを行うボランティア 470人
- 学校でおはなし会をしたり、学校図書館に協力するボランティア 670人
- その他に点訳絵本や布の絵本づくり、図書館内での展示などのボランティア 250人

(平成22年3月31日現在) **合計 2,410人**

・「平成22年度 大阪市教育委員会事務局経営方針」
(達成目標)読書支援活動ボランティア 22年度 2,500人以上(19年度末 1,870人)

8

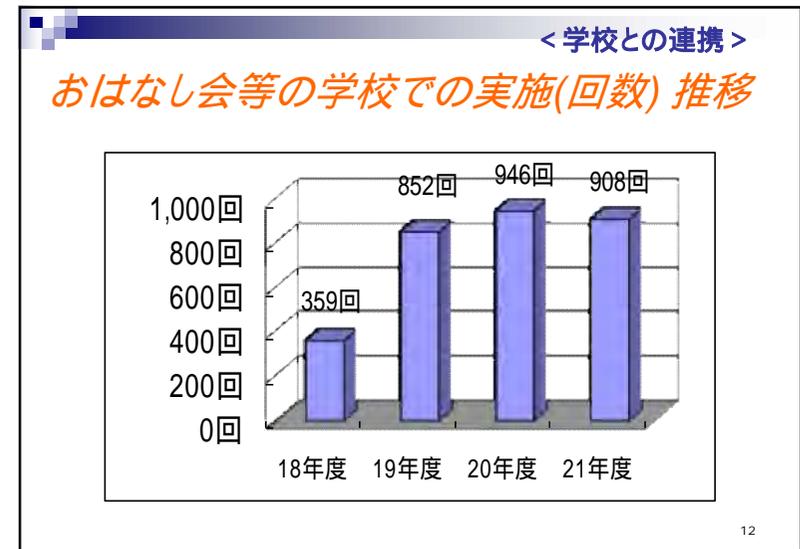
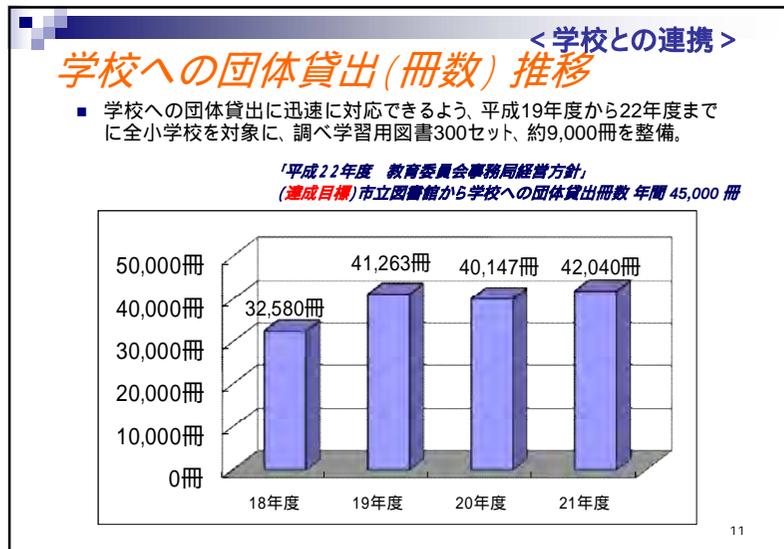


< 学校との連携 >

学校との連携・支援(平成18年度～)

大阪市立 小学校299校 中学校127校 特別支援学校9校

		18年度	19年度	20年度	21年度
資料・情報提供	学校への団体貸出	32,580冊	41,263冊	40,147冊	42,040冊
資料・情報活用の支援	図書館見学	195件	240件	234件	203件
	図書館での調べ学習等	204件	335件	359件	294件
読書普及活動への支援	おはなし会等の学校での実施	359件	852件	946件	908件
職場体験学習の受入	図書館員の仕事を体験	76件	93件	83件	81件
学校図書館主任会への参加等	学校図書館主任会への参加、教員研修受け入れ	23件	26件	32件	44件



大阪市立図書館の 乳幼児向けサービスについて

大阪市立中央図書館
利用サービス担当
平成23年3月28日

乳幼児向けサービスについて

1. ブックスタート事業への支援
2. 幼児期読書環境整備事業
3. 図書館や子育て支援の場での読書普及事業
4. 子育て支援施設とのネットワークの広がり



2

乳幼児向けサービスについて

1. ブックスタート事業への支援

- 大阪市では、平成15年度より実施(主管局:こども青少年局)
- 現在、3か月健診の案内に絵本の引き換え券を同封。
- 概ね**1歳になるまで**に、近くの子育て支援施設で実施する司書とボランティアによる**絵本講座と読み聞かせの場**に参加していただき、

絵本を1冊、プレゼント!



「ブックスタート」とは、赤ちゃんと保護者が本を通して、楽しい時間を分かち合うことを応援するもの

ブックスタート えほん



- 平成15・16年度 『いないいないばあ』 松谷みよ子・文 童心社刊
- 平成17～19年度 『がたんごとんがたんごとん』 安西水丸・作 福音館書店刊
- 平成20年度 『くだもの』 平山和子・作 福音館書店刊



- 平成21年度 『ぴょーん』 まつおかたつひで・作 ポプラ社刊
- 平成22年度 『じゃあじゃあびりびり』 まついのりこ・作 偕成社刊

ブックスタートと図書館



乳幼児サービスの拡充

- 赤ちゃん絵本コーナーの設置
- 乳幼児向けおたのしみ会の実施 参加者増

乳幼児親子の利用増加

- 児童書、特に絵本の貸出冊数の増加

乳幼児サービスの拡大

赤ちゃん絵本コーナーの設置



乳幼児サービスの拡大

乳幼児向けおたのしみ会の増加

平成21年度 554回 16,441人参加

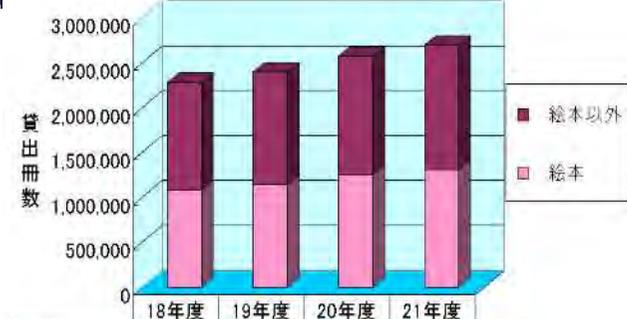


乳幼児向けおたのしみ会実施回数・参加者数の推移

年度	実施回数	参加者数
18年度	263	~
19年度	470	~
20年度	437	~
21年度	554	16,441

乳幼児親子の利用増加

- 児童書貸出冊数の推移 -



	18年度	19年度	20年度	21年度
絵本以外	1,195,134	1,254,958	1,317,461	1,384,928
絵本	1,083,528	1,141,640	1,251,967	1,309,614

2. 幼児期読書環境整備事業

- 保育所・幼稚園等へ絵本のセット貸出
配本対象施設の拡大へ



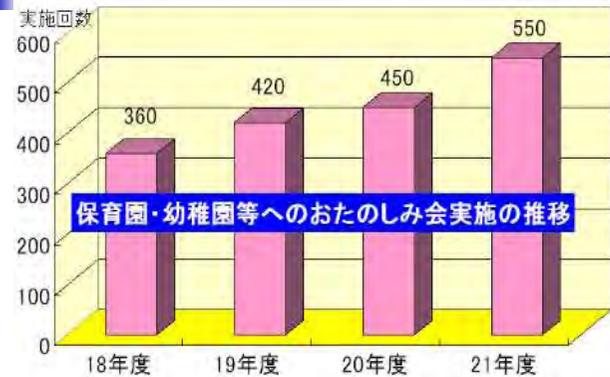
平成18年度 全区の公立幼稚園、保育所
 平成19年度 全区の子ども・子育てプラザ
 平成20年度 私立幼稚園、保育園にも呼びかけ
 平成21～22年度
 子育て支援センター・つどいの広場等子育て支援施設にも拡大

平成21年度実績

図書貸出 512回 30,791冊
 ボランティア活動(絵本の読み聞かせ等)520回

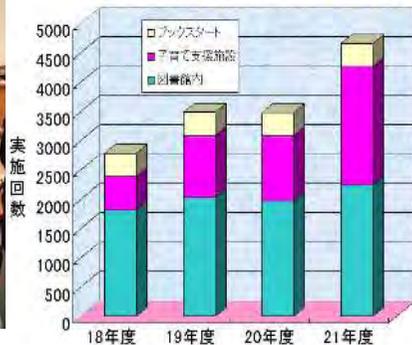
9

幼児期読書環境整備事業における 保育園・幼稚園等でのボランティア活動



3. 図書館や子育て支援の場での 読書普及事業

子ども向け読書普及事業の推移



4. 子育て支援施設との ネットワークの広がり

子育て支援施設での読書普及事業の推移



- 絵本展、お楽しみ会の開催





障害のある子どもへのサービス

大阪市立図書館 利用サービス担当
平成23年3月28日

1. 大阪市立中央図書館の 障害者サービス



- ・サービスを受けるには
- ・資料の貸出について
- ・対面朗読、郵送貸出など



2 障害のある子ども向けの 図書館資料

- 点訳絵本
- さわる絵本
- 布の絵本
- 大活字本
- こどものほんだな
- マルチメディアデジター資料



点訳絵本

- ・絵本に透明シートに書いた点字と、絵の説明や絵の形に切り取った透明シートを貼ったもの。
- ・視覚に障害を持った保護者が子どもと一緒に楽しめるよう配慮されている。
- ・誰でも利用できる。
- ・948冊所蔵
1F子どもの本コーナー



さわる絵本

- 絵本の絵の部分に触って楽しめるように素材の触感なども考え作られた絵本。
- 原本のあるものは、著作権許諾の関係上、視覚障害のある方のみ貸出可能。
- 150冊所蔵



さわる絵本 「まほうつかいとねこ」

(さわる絵本の会コスモス制作)



さわる絵本 「どうぶつあいうえお」

(つみきの会制作)



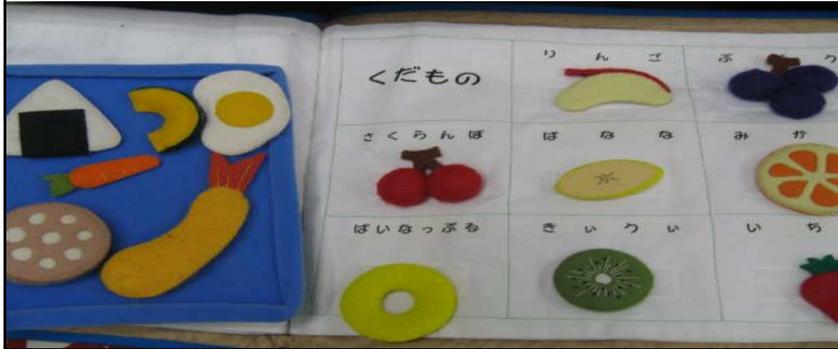
布の絵本

- 肢体障害や知的障害をもつ子どもたちのために、布などで作られた本の形態のもので、手先を使って楽しめるように作られている。
- 著作権上は誰でも利用可能だが、管理の面から現在は障害者用、もしくは、行事用としてのみ貸出可。
- 90冊所蔵



布の絵本「おべんとうつくろう」 (布絵ると制作)

お弁当箱になにいれようか？
マジックテープで留めてあるくだものをおべんとう箱に入れて……。
遊びを通して、手先を使う訓練ができます。



布の絵本「だれのおうち」 (ふきのとう文庫)

遊びながら
チャックの開け
閉め
練習！



さわる絵本・布の絵本作成ボランティア

- さわる絵本・布の絵本作成ボランティアグループ製作講座修了生で結成！
- 図書館が材料と作業場所を提供、完成した絵本を寄贈してもらう。



大活字本

- 大きな活字で印刷、出版された資料。
- 子ども向けの本もあり。細かい文字が読みづらい利用者向けだが、誰でも利用可能。

• 32,642冊所蔵

大阪市立全館に
専用コーナーあり。



こどものほんだな

- 点字版は1996年版から
- テープ版とマルチメディアデイジー版は2004年版から作成。
- 1年遅れで提供。



マルチメディアDAISY資料

- マルチメディアデイジー図書とは、パソコン上で専用再生ソフトを使用することにより、音声にテキストや画像をリンクさせて表示できるデジタル資料。
- 図書の付属資料として数点所蔵。
- 近年、学習障害の子どもたちに対する有効な学習支援ツールとしても注目を集めている。

3 著作権について

- 著作権法第37条により、点字の複製は認められている。公共図書館が音訳資料を蔵書とする場合は著作権の許諾が必要。
- 著作権法改正により2010年1月より公共図書館での音訳資料等の製作および譲渡が可能。利用者も視覚および視覚認知に障害がある者に拡大。

4 最近のとりくみ

布の絵本・さわる絵本の活用講座
 マルチメディアデイジー講演会・講習会
 One Book One OSAKAの上位ランキング絵本をマルチメディアデイジー化
 特別支援学校との連携

布の絵本・さわる絵本の活用講座

- ・ 2010年2月に障害をもつ子どもに絵本の楽しさを届けることを目的
- ・ 図書ボランティア向けの講座を開催



マルチメディアデイズー 講演会・講習会

- ・ マルチメディアデイズー講演会を2007年より毎年共催
- ・ 講習会も開催し人材育成をはかる



One Book One OSAKA の上位ランキング絵本を マルチメディアデイズー化!

- ・ 平成20年度に、マルチメディアデイズー図書の制作を目指し、人材育成のための制作講習会を開催
- ・ 受講修了者による勉強会を発足
- ・ 平成21年度より、One Book One OSAKAの上位絵本のマルチメディアデイズー化の検討開始。
- ・ 『100万回生きたねこ』『もりのゆうびんきょく』など



特別支援学校との連携

- ・ 小学校向けの本のバザール
- ・ 体験学習
- ・ お話会



平成 22 年度 各区子どもの読書活動推進連絡会 報告

1. 構成

ボランティアグループ、区役所生涯学習担当、保健福祉センター地域保健福祉担当・子育て支援室、保育所、子育て支援センター、子ども・子育てプラザ、幼稚園、小学校、中学校、区社会福祉協議会、区コミュニティ協会、生涯学習推進員連絡会、民生委員児童委員など

2. 主な報告・協議内容

(カッコ内は区名)

(1) 子育て支援の場での取り組み

昨年8月からブックスタート事業の実施場所・方法が全区で変更され、新たに実施場所となった“つどいの広場”などの子育て支援施設に対して連絡会への参加を呼びかけている。子育て支援施設に初めて来所される参加者も多く、施設を知ってもらおうきっかけになっている。参加者は増えてきたが、一方で、関心がない保護者、赤ちゃんを連れて外出することを不安に思う保護者などに対してどのようにPRしていけばいいのか、工夫や意見が出された。

子育て支援センターや子ども・子育てプラザ等施設での読書支援活動の広がり

- ・子ども・子育てプラザで、週3~5回手遊びのあと1冊の絵本の読み聞かせを行ったり、小学生向けの工作やクッキングで待ち時間などに絵本を用意している。子育てサークルが月1回程度、絵本に因んだクッキング「絵本カフェ」をしている。(北)
- ・子育てプラザで、中央図書館から借り受けをしている絵本パックの貸出に加え、今年度から絵本71冊を購入し貸出を始めた。たいへん好評で、来年度も80冊を購入予定。5冊入りのセットにして貸している。(住之江)
- ・絵本の会が子ども・子育てプラザの「イクメン講座」を担当。おはなし会等でお父さんの参加が増えている。(天王寺)
- ・子育て支援センターで、ブックスタートボランティアの手伝いも得て、「絵本のひろば」をはじめて開催(淀川区内では子育てプラザや小学校等で「絵本のひろば」が開催されている)
- ・子育て支援センターから鳴野小の学校図書館の見学を行ったところ、子どもたちがとても喜んでいて。(城東)
- ・つどいの広場では、月・水・金におたのしみ会を行い、絵本の読み聞かせもしている。最初はざわざわしていたのが、積み重ねのうちに聞いてくれるようになった。読んだ本も必ず借りて帰ってくれる。それにつれて保護者も家庭で読み聞かせをするようになってきた。(東淀川)
- ・年度はじめに、浪速区の子育て関連行事の年間スケジュール表があれば、学校・保育所・子育て関連施設が情報を共有でき、各施設・団体とも、動きがとりやすいのではないかと。(浪速)

ブックスタート事業について

- ・ブックスタートについての案内文を配布しているが、たくさんの情報の中のひとつであり、保護者に周知徹底しきれていないと思う。ブックスタート事業が各施設に分散するようになり、それぞれの施設を紹介する上では良かったが、興味・関心のない保護者に興味を持っていただくにはどうすればよいか課題。一方で、ブックスタート後、お母さん方同士の子育て相談など、交流の輪がひろがる光景が施設で見られる。（平野他）
- ・3か月児健診時に実物を見せて絵本を紹介するなどの工夫を行うことによって、参加者が増え、定着しつつある。（生野）
- ・子育てプラザでは、目につくところにブックスタートのポスターを何箇所も貼り、絵本のプレゼントという点を強調している。子育て支援センターから健診会場に出向き、1歳までに参加すればいいですよ、とブックスタートをアピールしている。

ブックスタートの引き換えのチケットに、「ブックスタートへのおさそい」とあると何のことかわからず、また何か勧誘のようで良くないのではないかと、「絵本のプレゼント」と強調したほうがよいのではないかと。（港他）

- ・申し込みは増加しているが、少ないところもあり各場所での申し込みのバランスが悪い。（東淀川）
- ・現在9区で3か月児健診時に図書館司書、ボランティアがブックスタート事業の紹介や読み聞かせ等を行っており、子育て支援センターなどが出向いてPRしている区も多い。

障害がある子どもへの読書支援活動

- ・おもちゃ図書館について、障害がある子どもにも遊びを豊かにする活動をしている。第2・4水曜日におはなし、パネルシアター、エプロンシアター、わらべうた、手遊びなどを行っている。わらべうたはお母さんたちもよるこんでくれるので、これからも積極的にやっていきたい。（福島）
- ・おもちゃ図書館「たんぽぽ」のクリスマス会に絵本の会鶴見が参加、非常に好評だった。（鶴見）

(2) 学校での取り組み

学校図書館活性化事業が全校実施となり、ボランティアの活動や学校教育の中でのさまざまな取り組みが報告された。区単位で実践交流会が実施され、連絡会との連携、効果的な情報交換のあり方等今後の課題である。図書館から小学校への団体貸出については、学校送便が使えるようになり、小学校で図書館資料が利用しやすくなった。

24の中学校区で行われている「学校元気アップ地域本部」事業に協力する図書館が増え、中学校での読書活動が話題となった区が増えた。

学校

- ・週4回の図書室開放は、図書委員会とボランティア「さくぼん」で2回ずつ分担。雨の日は特に利用多く、続けることで利用が増えている。さくぼんがディスプレイを工夫し、子どもたちが本を手に取りやすくなっている。図書委員とさくぼんとのコラボ読み聞かせ会は準備

が大変だが、やりがいを感じている。昨年秋に「絵本ひろば」を企画し図書室で実施。高学年男子など普段は興味を示さない児童もリラックスして楽しんでいた。（都島）

- ・はぐくみネット等を利用しボランティア募集チラシを地域にも配布し、地域の方も含め現在16名。毎週金曜日に図書館開放をし、2週間に一度読み聞かせを実施。子どもが子どもに読み聞かせをするという試みを行い、読み方が上達していくのを実感した。学期ごとに読書週間を設定して読書活動にとりくんでいる。（福島）
- ・2つの小学校の朝読の時間に読み聞かせで入っているが、必ず校長先生にも読み聞かせに参加してもらおうようにしている。（浪速）
- ・ボランティアが図書室をきれいに整備したことにより、学校でのアンケートで本好きの子ども数が増加したという結果が出た。ボランティアのおすすめの本を置いたり、掲示物を作成したり、全児童におすすめの本を尋ねてランキング表を作成するなど行った。（旭他）
- ・読書週間のとき、高学年が低学年に読み聞かせをしている。本のカバーが取れてしまうので、それを使ってシオリを作り、好評を得ている。（城東他）
- ・ボランティアグループに名前があると、PRのポスターやボランティアの名札に書いたりして、学校図書館に来る児童により親しみがわくのではないかと。（西成）
- ・小学校おはなし会のあとの置き本について 小学校からおはなし会の後で希望が出た。前もって希望を聞いておれば図書館で置き本の準備はできるし、返却も学校通送便で楽にできる。来年度からは小学校からのおはなし会申込時に置き本希望かどうか確認するようにしたい。（住之江）

中学校

- ・朝の読書活動を実施しており、その時読んだ本の感想を葉っぱの形に切って、玄関にある大きな木の絵に貼り付け、「読書の木」として飾っている。また、「読書ノート」に簡単な感想とともに読書の記録をとらせている。図書館開放は図書委員会が中心となって毎日実施。ブックトークなども行っている。（西）
- ・図書委員24名が、毎月図書館だよりを発行、POP作りなども行う。大型絵本を作成し、近隣の幼稚園・保育所や小学校で読み聞かせを行っている。図書委員もやりがいを感じているが、授業時間が長いので時間設定がむずかしい。このような活動を通し、子どもたちが今すぐでなくても、いずれ読書に親しむことのよさを感じてもらえたらと思っている。（都島）
- ・地元の小学校の読み語りグループが中学校に行って読み語り等、読書活動を支援するということは以前から行われていたが、今年度は学校元気アップ地域本部事業の一つとして、中学校に読み聞かせのボランティアグループが誕生。（淀川）
- ・学校元気アップ地域本部事業として、学習支援と図書館の活性化を行なっている。小学校のボランティアの協力で読み聞かせを実施。夏休みには絵本講座、12月には交流会を実施、地域の方に図書館整備を中心としたボランティアを募集する。（住吉）

(3) 地域との連携の場での取り組み

ボランティアを軸として、さまざまな施設と連携した絵本展や講演会等などの取り組み、フェスタ等への参加が広がっている。One Book One Osaka事業の「世代間交流事業」の実

施によって、新たなつながりが生まれた。区役所や社会福祉協議会等と連携して、地域で実施されている読書活動の情報収集を拡充する必要がある。

- ・ボランティアグループからの自主的なメンバーが実行委員として 1 年間定例的に会議を重ねて区民センターでえほん展を開催。(生野)
- ・福祉ふれあい広場など、イベントの際は乳幼児コーナーをつくり、なにわえほんの会に来てもらって大型絵本の読み聞かせやおはなし組木を実施している。親子フェスタのえほん展では、絵本 700 冊を展示。(浪速)
- ・子育てサロンを第 1 木曜日午前小学校でしているのので、同じ日に児童いきいき放課後事業に参加する子どもたちに呼びかけて「絵本ひろば」を行った。(午前が乳幼児、午後がいきいき放課後事業に参加する小学生)小学校からも声かけをもらった。(港)
- ・区生涯学習推進委員会が主催した君島久子さんの講演会・絵本展において、会場準備のかたづけ、君島作品の紹介リスト作成等に多くのボランティアの力が発揮された。(淀川)
- ・各ボランティアグループによる絵本の読み聞かせや絵本の展示、各施設の紹介資料展示などを行う「こどもといっしょに！ - 絵本を楽しむ西区の日 - 」を実施。次回は小学校のボランティアの参加を増やす、中学生に読み聞かせをもらう、保護者向けの講座実施等さまざまな意見が出た。(西)
- ・「学び」の渡し船プロジェクト事業として、地域を紹介する絵本づくりを行った。1 枚の紙をパタパタと折りたたんでつくる小さな絵本作りをいきいき活動の児童を中心に、生涯学習ルームに関わる大人も一緒に小学校で実施した。(大正)
- ・区民カーニバルで「絵本のとりかえっこ」というイベントをしたところ、沢山の絵本が集まった。残った本もあるので希望の方にお譲りできる。家庭には眠っている本がたくさんあると感じた。(北)
- ・主任児童委員として、子育て支援サークルで月 2 回の読み聞かせを行なっている。お母さんから絵本について相談されることがあり、おすすめの絵本についての情報を持ちかえりたいと思って参加している。(図書館は地域のグループについて情報を集めきれていないので、区役所の子育てサロン担当者にお尋ねし、熱心に活動されている方を紹介していただいた)(都島)
- ・幼稚園で、家に持って帰って保護者にも読み聞かせをしてもらっているが、「どのように絵本を読んであげればいいのか教えてほしい」との声が寄せられた。それを受けて、絵本の読み聞かせについての出前講座を図書館に依頼した。(西)
- ・今年度実施した One Book One Osaka 事業の「世代間交流事業」は、老人福祉センターとも連携できてよかった。来年度も実施して欲しい。(住之江)
- ・高齢者福祉施設で世代間交流事業を実施、手づくりのあおむし人形を配って参加した親子と入所者とで交流。高齢者が交流を喜んでおられた。(都島)
- ・図書館で夏休みに子どもの読み聞かせボランティア講座を実施。小学校低学年を中心に中学生も 1 名参加。高齢者福祉施設でおはなし会を実施し世代間交流を図った。(住吉)
- ・子育て情報マップに、読み聞かせをしている施設一覧を掲載している。
支援が必要な家庭を訪問するときも絵本を持っていき、読み聞かせるとその家の子どもと仲良くなれる。(城東)

各区子どもの読書活動推進連絡会の4年間をふりかえる

1. 子育て支援の場での取り組み

子育て支援センター等で定期的実施されているおはなし会のようなすや保護者への働きかけの方法等意見交換

保健福祉センター等親子が集まるさまざまな場所に絵本が置かれていたり、図書館からの配本の活用等が報告された。

施設とボランティア、図書館との連携が広がる

- ・子育て支援センターなどでボランティアが定期的に読み聞かせをする
- ・図書館司書やボランティアが子育て支援施設で行われる読み聞かせなどの講座を担当する
- ・図書館のおはなし会に子育て支援センターの職員が定期的に参加する

ブックスタート事業の実施方法の変更

- ・子育て支援施設が会場となり、保護者にとって身近な施設を知ってもらうきっかけとなる、母親同士の交流が広がる
- ・参加者が増えるよう、PRの工夫を図る必要がある

2. 学校での取り組み 成果と課題

学校図書館支援モデル事業（平成20年度からは学校図書館活性化事業）が始まり、実施校での取り組みの紹介、学校図書館での子どもたちのようすなどが紹介され、意見交換が行われた。

学校図書館活性化事業の全校実施、「学校元気アップ地域本部」事業等の開始

- ・ボランティアの活動や学校教育の中でのさまざまな取り組みが紹介される。
- ・高学年が低学年に読み聞かせをするなど、子どもが子どもに読み聞かせをする取り組みが増えている。
- ・中学校からの参加が増え、図書委員の活動等の取り組みが紹介された。

3. 地域との連携の場での取り組み

区内で開催されるさまざまな催しにボランティアが協力・参加し、子どもに読書の楽しさを伝える機会を広げていることが報告された。

ボランティアを軸として、さまざまな施設と連携した取り組みの拡充

- ・読書マップづくり、絵本展や講演会など連絡会としての取り組みの拡充、フェスタ等への参加が広がっている。
- ・One Book One Osaka事業は、ボランティアが運営委員として意見交換を行いながら事業を進めている。この事業のなかで実施した「世代間交流事業」によって、ボランティアと老人福祉センターなどとの新たな連携が生まれた。
- ・区役所や社会福祉協議会等と連携して、地域で実施されている読書活動の情報収集を一層拡充する必要がある。

「大阪市子ども読書活動推進計画」 課題整理に向けて

「大阪市子ども読書活動推進計画」 3 基本的な方針 (1) 計画の目標

大阪市のすべての子どもたちが自主的な読書活動に取り組むことができるよう、家庭や地域、図書館、学校が連携・協力し、次に掲げる目標の実現に努力します。

子どもの読書環境の整備・充実

大阪市のすべての子どもたちに読書に親しむ機会を提供します。そのための読書環境の整備・充実に努めます。

- ・数値目標の設定
- ・障害のある子どもに対するサービスの拡充
- ・中・高校生に対する読書環境の整備
- ・言語力、情報検索力向上への支援

家庭、地域、図書館、学校の連携・協力

子どもの発達段階に合わせ、家庭や地域、図書館、学校がそれぞれの役割を果たし、連携・協力を深め、子どもの読書活動を推進していきます。

家庭、地域、図書館の連携・協力

- ・ブックスタート事業を軸とした子育て支援施設との連携・協力

学校を軸とした地域、図書館の連携・協力

- ・学校図書館活性化事業の継続、拡充
- ・「学校元気アップ本部」事業への協力等中学・高校に対する連携・協力の検討、拡充

子どもの読書活動に関する普及・啓発

子どもの読書活動を推進するための積極的な普及・啓発活動に努めます。保護者や教職員、子どもを取りまく地域社会の理解と関心を深めます。

- ・One Book One Osaka事業の継続・拡充

人と本、人と人を結びつける人材の育成

1冊の本との出会いは、人と人の出会いでもあります。読書支援活動ボランティアの養成など、子どもと本を結びつける人材の育成に積極的に取り組みます。

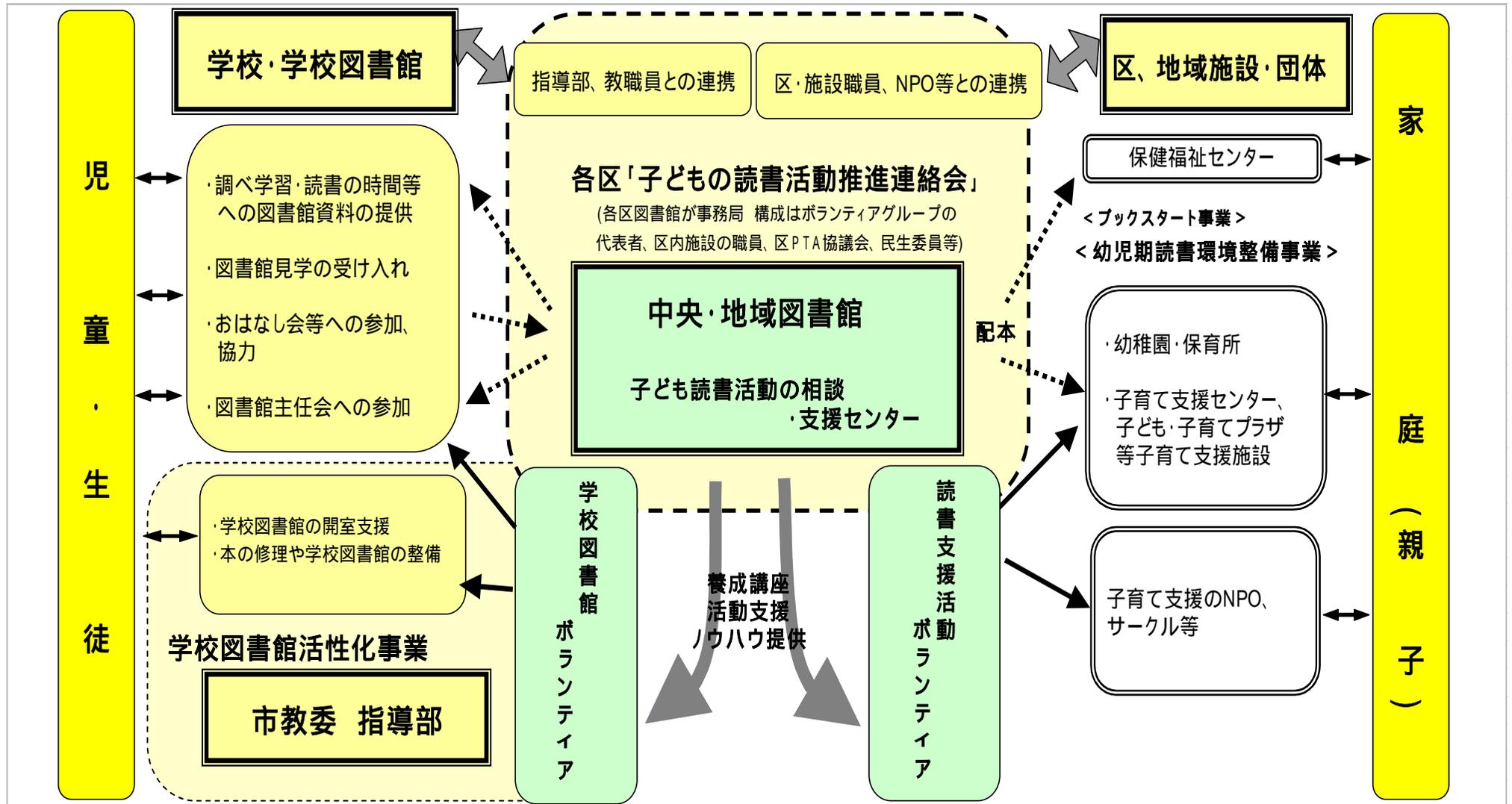
- ・読書支援活動ボランティアの拡充、連携強化
- ・図書館と学校図書館支援ボランティアの連携強化

地域・市民を軸とした読書活動の輪の形成

子どもを取りまく地域社会が、子どもの読書活動を通して有機的に結びつき、子ども読書活動推進のネットワークを形成し、地域の教育力の向上につながるよう取り組みます。

- ・区役所をはじめとする区内地域施設と図書館の連携強化

子どもの読書活動推進 概念図



大阪市子ども読書活動推進計画 -概要-

第1章 基本的な考え方

1 子どもの読書活動とは

子どもにとって読書とは、さまざまな世界との出会いであり、言葉を学び、表現力や創造力を豊かなものとするうえで欠くことができないものです。

2 推進計画策定の背景

子どもの読書活動に関する施策の総合的、計画的な推進を図るため、「子どもの読書活動推進に関する法律」が平成13年に施行され、同法によって国と地方公共団体は、子どもの読書活動の推進計画を策定・公表することが定められました。

3 基本的な方針

すべての子どもたちが自主的に読書に取り組むことができるよう、家庭や地域、図書館、学校が連携・協力し、子どもの読書環境の整備・充実、普及・啓発、人と本、人と人を結びつける人材の育成、地域・市民を軸とした読書活動の輪の形成に取り組みます。

第2章 推進のための具体的な取り組み

1 家庭、地域における子どもの読書活動の推進

乳幼児にとって、大好きな人が自分のために語りかけてくれることは大きな喜びであり、人間への信頼感を築き、やがて言葉の獲得につながります。

ブックスタート事業の効果を高め、乳幼児と保護者が絵本に触れ合う機会が増えるよう、情報提供の拡充、継続的な働きかけに努めるとともに、子どもに身近な施設で読書を楽しめる環境づくりに取り組みます。また、各施設と子育てグループ、図書館間でネットワークづくりを図り、子どもの読書に対する理解を深めます。

2 図書館における子どもの読書活動の推進

子どもにとって図書館は、ひとりの利用者として、自由に読みたい本を選び、読書の楽しさを体験し、貸出などのサービスを受けることができる場であり、本の検索等を通し、求める資料・情報を見つけたり、豊かに広がる知識・情報の世界に触れられる場でもあります。

各図書館ごとに重点事業計画を立て、蔵書の充実や絵本や物語を楽しむ機会の拡充など、サービスの充実に取り組み、図書館が地域における子どもの読書活動推進の相談・支援センターとしての機能を果たします。また、各種講座や交流会の開催等、子どもの読書活動支援にかかわるボランティアの交流、支援に努めます。

3 学校における子どもの読書活動の推進

学校教育では従来から各教科等での学習を通じて読書活動が行われており、読書習慣を形成していくうえでも大きな役割を担っています。さらに、読書タイムや読みきかせの充実を図るなど、各学校が積極的に読書活動の推進・充実に努めます。

子どもの主体的な学習活動を支え、読書活動を通じて子どもの人間形成を育む場として、学校図書館の役割は極めて重要であり、学校図書館司書教諭が学校図書館の運営に十分な役割を果たすことができるよう、教職員の協力体制の確立、校務分掌上の配慮などに努めます。

家庭・地域が連携して子どもの読書活動支援に取り組む事例などを収集し、各学校へ発信するよう努めます。

4 子どもの読書支援活動への理解と意識の向上

図書館のホームページ上でコンテンツを豊富にするなど、さまざまな機会を活用し、市民への情報提供や子どもの読書に対する理解・関心が高まるよう努めます。

5 関係機関の連携・協力

子どもの「生きる力」の育成をめざすという教育改革の理念は、家庭や地域、学校が連携・協力して実現するものであり、地域社会の中で子どもを育てる教育コミュニティの再生を図ることが必要です。「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書を行うことができるよう」支援するために、家庭、地域、図書館、学校の連携を推進します。

学校図書館の活性化を図るため、学校と図書館との連携を強化し、学校と図書館の連携モデル事業等の研究を進めます。

図書館の幼児期読書環境整備事業について、対象施設の拡充を検討し、乳幼児親子が身近に絵本に親しめる環境づくりを目指します。

第3章 計画を推進するための重点施策

1 推進体制の整備

区レベルで、図書館、学校、子どもの読書活動推進にかかわる関係機関、読書支援活動ボランティア等で構成する「子どもの読書活動推進連絡会(仮称)」を設置し、市民参加による推進体制を整備します。

2 普及・啓発活動の推進

3 家庭、地域、図書館、学校における子どもの読書活動の推進

家庭、図書館や子どもの身近な施設、学校、のそれぞれが子どもが読書に親しむ機会の充実に努めます。

4 連携による子どもの読書活動の推進

子どもの読書にかかわるさまざまな施設が連携・協力しながら、子どもの読書活動を豊かにできるよう、図書館が積極的な情報収集・提供に努め、地域の子どもの読書活動の相談・支援センターとしての役割を果たします。

大阪市子どもの読書活動推進連絡会設置要綱

(設置)

第1条 「大阪市子ども読書活動推進計画」(平成18年3月策定)に基づき、本市のすべての子どもたちが、さまざまな機会と場所において読書の喜びを味わい、読書を通して生きる力を身につけていくことができるよう、各区で行う子どもの読書支援活動の連携を進めるため「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」(以下「推進連絡会」という)を設置する。

2 各区において学校や図書館その他の関係機関及び民間団体・グループが、それぞれの課題を理解しながら協力して取り組み、子どもの読書活動を推進するため、各区に「区子どもの読書活動推進連絡会」(以下「区の推進連絡会」という)を設置する。

(所掌事務)

第2条 「推進連絡会」は、次の各号に掲げる事項について協議を行う。

- (1) 区の「区の推進連絡会」での協議の集約に関すること。
- (2) 子ども読書の日(4月23日)記念事業他関係団体等が行う読書支援活動の状況把握に関すること。
- (3) 子どもの読書支援活動を推進するための広報啓発事業に関すること。
- (4) その他、子どもの読書支援活動推進のために必要な事項に関すること。

2 「区の推進連絡会」は、次の各号に掲げる事項について協議を行う。

- (1) 地域における子どもの読書支援活動に関する情報発信に関すること。
- (2) 施設間、団体間の情報交換や他の区の子どもの読書支援活動の紹介・交流に関すること。
- (3) 学校図書館支援モデル事業の進捗状況の報告に関すること。
- (4) 学校における子どもの読書支援活動についての情報の共有化に関すること。
- (5) 子ども対象の読みきかせやおはなし会、子どもの読書支援活動に関する講座の開催に関すること。
- (6) その他、区における子どもの読書支援活動推進のために必要な事項に関すること。

(構成)

第3条 「推進連絡会」は、別表に掲げる団体等の代表者(推薦された者)により構成する。

2 「区の推進連絡会」は、各区内の図書館、学校、幼稚園、保育所、区役所、保健福祉センター、子ども・子育てプラザ、子育てサロンなど、子どもの読書活動に関わる関係機関の職員および読書支援活動グループ等の代表者の参加により、開催する。

(座長)

第4条 「推進連絡会」に、座長を置く。

2 座長は、「推進連絡会」の構成員の互選により選出する。

(「区の推進連絡会」の代表者)

第5条 各「区の推進連絡会」に、代表者を置く。

2 代表者は、各「区の推進連絡会」の構成員の互選により選出する。

(事務局)

第5条 「推進連絡会」の事務局は大阪市立中央図書館利用サービス担当に置く。

2 各「区の推進連絡会」の事務局は各区の大阪市立図書館に置く。

(会議)

第6条 「推進連絡会」は、事務局が構成員を招集して開催する。

2 各「区の推進連絡会」は、事務局が構成員を招集して開催する。

(施行の細則)

第7条 この要綱の施行について必要な事項は、事務局が定める。

附則 この要綱は平成19年 7月 17日から施行する。

(別表)

大阪市子どもの読書活動推進連絡会の構成

順不同

- ・ 各区の「子どもの読書活動推進連絡会」代表者
- ・ 大阪市PTA協議会
- ・ 大阪市生涯学習推進員協議会
- ・ 大阪市教育委員会事務局 生涯学習部
- ・ 大阪市教育委員会事務局 指導部
- ・ 大阪市立図書館
- ・ 学識経験者

平成22年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会事務局名簿

(平成23年3月28日)

教育委員会事務局中央図書館

所 属	氏 名
中央図書館館長	吉原 康文
中央図書館副館長	小西 和夫
中央図書館総務担当課長	大対 好行
中央図書館利用サービス担当課長	高橋 俊郎
中央図書館地域サービス担当課長	大久保 典子
中央図書館地域サービス担当課長代理	小前 恭則
中央図書館利用サービス担当課長代理	松下 玲子
中央図書館利用サービス担当課長代理	川窪 和子
中央図書館 担当係長	赤堀 祐子
” ”	島上 智司
” ”	角田 人志
” ”	林 隆子
” ”	縣 和世
北図書館長	吉田 和彦
都島図書館長	波多野 圭子
福島図書館長	米川 くりえ
此花図書館長	池上 也志保
島之内図書館長	島津 秀信
港図書館長	中田 夕子
大正図書館長	阪田 佳子
天王寺図書館長	藤江 千恵
浪速図書館長	波床 裕子
西淀川図書館長	齋藤 健一
淀川図書館長	瀬楽 訓子
東淀川図書館長	齊藤 美子
東成図書館長	平田 満子
生野図書館長	浅川 裕俊
旭図書館長	藤井 直美
城東図書館長	井上 裕美子
鶴見図書館長	山田 和伸
阿倍野図書館長	滝澤 裕美子
住之江図書館長	鎌田 恵子
住吉図書館長	川嶋 恵子
東住吉図書館長	縞居 明子
平野図書館長	柴田 晴美
西成図書館長	成元 勝

教育委員会事務局指導部

所 属	氏 名
指導部 首席指導主事	岡田 和子
指導部 担当係長	田野 晶子

教育委員会事務局生涯学習部

所 属	氏 名
生涯学習部 生涯学習担当課長	森本 充博
生涯学習部 担当係長	松原 俊幸

平成22年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会出席予定者名簿

(平成23年3月28日)

お名前(敬称略)	代表区分	所属・役職名等
脇谷 邦子	学識経験者	同志社大学嘱託講師、元府立図書館こども資料室長
木原 俊行	学識経験者	大阪教育大学教授
石川 久留美	社会教育関係団体	大阪市PTA協議会研修委員長
笹川 正明	社会教育関係団体	大阪市PTA協議会広報委員長
宮田 満憂美	社会教育関係団体	大阪市生涯学習推進員協議会運営委員長
柳本 真知子	社会教育関係団体	大阪市生涯学習推進員協議会副運営委員長
鈴木 洋一	社会教育関係団体	大阪市生涯学習推進員協議会副運営委員長
川原 由香里	区の子どもの読書活動推進連絡会代表	北 みつるポケット
村田 佳子	同上	都島 「ぼんぼこぼん」・東都島小学校「ひまわり」
坪田 幸子	同上	福島 おはなしボランティア「マトリョーシカ」
後藤 博美	同上	此花 此花図書館 絵本の会
釣島 恭子	同上	中央 絵本の会 島之内
牧野 真美	同上	西 おはなしの会まじょ魔女/絵本の会 西
平尾 良子	同上	港 絵本の会 みなと
北野 みどり	同上	大正 ひまわりの会
野田 祐子	同上	天王寺 天王寺おはなし「ぼちぼち」
上田 道代	同上	浪速 なにわえほんの会
鶴久森 典子	同上	西淀川 絵本の会西淀川ぼけっと
蔵満 美奈子	同上	淀川 おはなしグーチョコキパー
渡邊 裕美子	同上	東淀川 おはなしボランティアとことこ
大内 和子	同上	東成 絵本の会 東成
洪 静姫	同上	生野 絵本の会 生野
山本 文子	同上	旭 絵本の会 あさひ
福山 利容子	同上	城東 城東 絵本の会
橋口 由紀子	同上	鶴見 絵本の会 鶴見
岡田 三都子	同上	阿倍野 おはなしとんとん
徳永 寿美子		
山本 富美子	同上	住之江 絵本の会 住之江
高橋 弘子		
相原 民子	同上	住吉 住吉おはなしパレット
小路 君代	同上	東住吉 おはなしたまてばこ
田中 紀子	同上	平野 おはなし「たからばこ」
津村 陽子	同上	西成 絵本の会 西成

「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」実施報告書 平成23年(2011年)7月

大阪市教育委員会 〒530-8201 大阪市北区中之島1-3-20